

地方独立行政法人北九州市立病院機構
令和2年度の業務実績に関する評価結果報告書

令和3年8月

北九州市

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
1 大項目評価	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
2 小項目の実績・状況	9
I 法人に関する基礎的な情報	11
II 財務に関する情報	14
III 事業に関する説明	18
項目別の状況	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	22
1 政策医療の着実な実施	22
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実	32
3 医療の質の確保	46
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保	64
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	80
1 収入増加・確保対策	80
2 経費節減・抑制対策	88
3 自立的な業務運営体制の構築	94
4 職場環境の充実	102
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	106
1 財務基盤の安定化	106
2 運営費負担金のあり方	112
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	114
1 看護専門学校の運営	114
2 施設・設備の老朽化対策	118
3 市政への協力	120
第5 予算、収支計画及び資金計画	122
第6 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	122

はじめに

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人北九州市立病院機構の令和2年度における業務実績の全体について、地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会の意見聴取を行った上で、総合的に評価を実施した。

評価に際しては、「地方独立行政法人北九州市立病院機構業務実績評価の基本方針」及び「地方独立行政法人北九州市立病院機構年度評価実施要領」に基づき行った。

地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会 委員名簿

氏名	役職等	備考
穴井 堅能	北九州市医師会 会長	
石橋 薫	福岡県看護協会 専務理事	
小松 啓子	社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 理事長 福岡県立大学 名誉教授	
田中 雅夫	地方独立行政法人下関市立市民病院 理事長	
松木 摩耶子	松木公認会計士税理士事務所 公認会計士・税理士	
柳井 雅人	北九州市立大学 副学長	委員長
吉田 ゆかり	医療法人よしだ小児科医院 理事長	
渡邊 典子	思永法律事務所 弁護士	

(令和3年7月16日現在)

第1項 全体評価

1 評価結果

北九州市立病院機構における令和2年度の業務実績の全体評価は、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」とする。

2 評価理由

第1期中期計画期間の2年目である令和2年度の業務実績の大項目評価について、第1、第4は「評価A」、第2、第3は「評価B」、となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても、積極的かつ機動的に対応し、新型コロナウイルス感染症患者受入れの重点医療機関として、中心的な役割を果たした。

また、理事長を中心に、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立的な運営を目指した取組みを着実に実施し、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「その他業務運営」の項目について、評価が向上した。

このため、令和2年度の業務実績は「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価した。

なお、財政内容について、営業収支・経常収支・単年度実質収支が黒字化したが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいいため、補助制度の縮小・廃止を見据えて、引き続き、独自の経営改善を進めていくとともに、長期収支の均衡を図っていく必要がある。

評価にあたっての評価委員会意見・指摘等

- 「小児救急を含む救急医療」について、八幡病院は、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として患者を受け入れている。並行して、救急医療を今まで通りに行うことは非常に困難であり、その点を加味して、評価してよいのではないかと。
- 「医療に関する調査・研究」について、これまで少し停滞していた臨床研究が推進されてきたことは評価できる。
- 「適切な診療報酬の確保」について、査定率の低下など、評価できる項目もある。市の評価理由・特記事項等欄に、評価「3」とした理由を十分に書く必要がある。
- 「職場環境の充実」について、時間外勤務時間の削減といった成果が上がっており、評価できる。
- 財務内容について、コロナの影響があったかもしれないが、医業収益のところは弱いので、今後もっと頑張っていたきたい。
- 指標について、評価の継続性といった課題や評価制度に関わる内容となるが、可能であれば検討していただきたい。

3 大項目別の評価結果一覧

大項目		評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1		
第1	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12	1	4	7	0	0	3.5	A
第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8	0	3	5	0	0	3.4	B
第3	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	4	0	0	4	0	0	3.0	B
第4	その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	3	1	1	1	0	0	4.0	A
合計		27	2	8	17	0	0	—	—

評価S：評価Aを満たした上で、特筆すべき進捗が認められる
(市長が特に認める場合)

評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
(小項目評価結果の2以下が無く、平均が3.5以上)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
(小項目評価結果の2以下の項目評価数が2以下で、
小項目評価結果の平均が3以上)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている
(小項目評価結果の平均が3未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
(市長が特に認める場合)

第2項 項目別評価

1 大項目評価

第1	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
----	--

評価結果	A	中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
評価理由		<p>感染症医療において、新型コロナウイルス感染症に対し、市内唯一の第二種感染症指定医療機関である医療センターに加えて、八幡病院においても、積極的かつ機動的に対応し、市全体の入院患者数の約4割を受け入れるなど、新型コロナウイルス感染症患者受入れの重点医療機関として、中心的な役割を担った。</p> <p>救急医療において、八幡病院は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、救急車応需率等が低下した。北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うため、内科系医師などの医師確保が課題である。</p> <p>医療の充実において、医療センターでは、地域連携がん診療拠点病院として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用が進み、リニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の適応拡大など、高度で専門的な医療を提供するための取り組みや、緩和ケアセンター、薬剤師外来の開設、チーム医療の強化・充実、がん患者や家族の支援機能の充実などを実施した。</p> <p>八幡病院では、小児医療については、新型コロナウイルス感染症の影響による患者の減少はあったものの、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に必要な医療を提供した。</p> <p>医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取り組みを進めるとともに、クリニカルパス件数・適用率の向上、チーム医療の推進や医療安全対策など、年度計画に基づいた取り組みを進めた。また、治験等件数が大幅に増加するなど、医療に関する調査・研究に積極的に取り組んだ。</p> <p>市民・地域医療機関からの信頼確保については、紹介率・逆紹介率ともに向上し、連携が進んでいる。</p> <p>以上のことから、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。</p>

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 政策医療の着実な実施					
(1) 感染症医療	○				
(2) 周産期医療			○		
(3) 小児救急を含む救急医療			○		
(4) 災害時における医療			○		
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実					
(1) 医療センター		○			
(2) 八幡病院			○		
3 医療の質の確保					
(1) 人材の確保・育成			○		
(2) 医療の質の確保、向上			○		
(3) 医療安全の徹底		○			
(4) 医療に関する調査・研究		○			
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保					
(1) 患者サービスの向上			○		
(2) 地域医療機関等との連携		○			
合 計	1	4	7	0	0

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	B	中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
評価理由	<p>「経営戦略会議」の立ち上げなど、理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制が確立してきた。また、自立的な業務運営体制の構築を進めるとともに、経費削減・抑制対策についての取組みを進めた。</p> <p>両病院とも、施設基準の取得や適切な診療報酬の確保について、取組みが進んでいる。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による市民の受診控えや診療制限等により患者数・病床利用率は低下したが、柔軟な病床運営やコロナ禍での稼働率向上に取り組んだ。</p> <p>このため、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 収入増加・確保対策					
(1) 病床利用率の向上			○		
(2) 適切な診療報酬の確保			○		
2 経費節減・抑制対策					
(1) コスト節減の推進		○			
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備			○		
3 自立的な業務運営体制の構築					
(1) マネジメント体制の確立		○			
(2) 職員の経営意識の向上			○		
(3) 法令・行動規範の遵守等			○		
4 職場環境の充実		○			
合 計	0	3	5	0	0

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	B	中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
評価理由	<p>新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きい が、営業収支及び経常収支の黒字化、単年度実質収支の黒字化、年度末 資金剰余の増加を達成できた。</p> <p>国や県の補助金制度が縮小・廃止となる場合を見据えて、引き続き、 独自の経営改善や長期的な資金収支の均衡を図っていく必要がある。 このため、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」 と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 財務基盤の安定化					
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政 法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を 行うことにより、財務基盤を安定化させる。			○		
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収 支の黒字化を実現する。			○		
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや 返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。			○		
2 運営費負担金のあり方			○		
合計	0	0	4	0	0

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

評価結果	A	中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
評価理由	<p>看護専門学校において、卒業生の市内就職率が、令和5年度の目標値を上回り、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ、効率的な運営を行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的役割を担ったことから、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 看護専門学校の運営		○			
2 施設・設備の老朽化対策			○		
3 市政への協力	○				
合計	1	1	1	0	0

2 小項目の実績・状況

評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績報告書を作成する。なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組み、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 北九州市評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の5段階による評価を行う。

その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組みが行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

I 法人に関する基礎的な情報

1 法人の概要

(1) 法人の目的

地方独立行政法人法に基づき、地域の医療機関との役割分担と連携の下、北九州市の医療施策として求められる医療の提供、医療に関する調査研究、医療に従事する者の育成等の業務を行うことにより、医療水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

(2) 法人の名称

地方独立行政法人北九州市立病院機構

(3) 法人の設立団体

北九州市

(4) 本部の所在地

北九州市小倉北区古船場町1番35号（北九州商工貿易会館内）

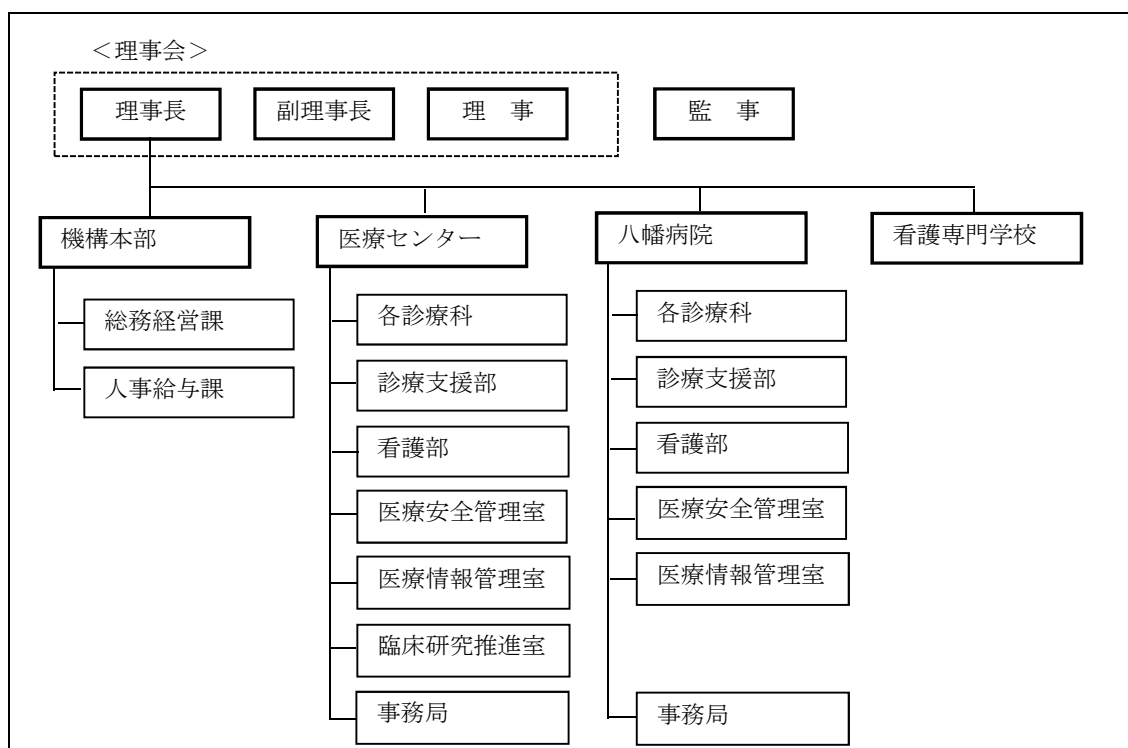
(5) 沿革

平成31年4月1日 地方独立行政法人として設立

(6) 設立に係る根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

(7) 組織図



(8) 設置・運営する施設の概要

名 称	所在地	概 要
北九州市立医療センター	北九州市小倉北区 馬借二丁目1番1号	一般病床 506床 感染症病床 16床
北九州市立八幡病院	北九州市八幡東区 尾倉二丁目6番2号	一般病床 312床
北九州市立看護専門学校	北九州市小倉北区 馬借二丁目1番1号	定 員 120名

(9) 資本金の額

資本金の額 15億9421万円

(10) 役員状況

役職名	氏 名	備 考
理 事 長 (常 勤)	中西 洋一	
副理事長 (常 勤)	武田 信一	機構本部長
理 事 (常 勤)	中野 徹	北九州市立医療センター院長
理 事 (常 勤)	伊藤 重彦	北九州市立八幡病院院長
理 事 (非常勤)	田中亮一郎	第一交通産業株式会社代表取締役社長
理 事 (非常勤)	松本 哲朗	元産業医科大学病院長・北九州市医務監
監 事 (非常勤)	中野 昌治	弁護士
監 事 (非常勤)	和唐 雄一	公認会計士

(11) 職員数 ※令和3年3月末現在

区 分	職員数
北九州市立医療センター	1,101人
北九州市立八幡病院	651人
北九州市立看護専門学校	17人
機構本部	34人
合 計	1,803人

※常勤職員数 1,345人 (前年度より123人増加)、平均年齢 41.4歳

市から法人への出向者数 49人、非常勤職員数 458人

2 基本的な目標等

当機構が運営する医療センター及び八幡病院は、政策医療として周産期、感染症、小児救急を含む救急及び災害時における医療を担っているほか、医療センターはがん医療、八幡病院は小児医療において、北九州地域で有数の実績を示している。

また、設立団体である北九州市からは、政策医療等を着実に実施するとともに、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立した病院運営を行うこと、福岡県地域医療計画の実現に向けて地域医療機関との役割分担と連携に取り組むことが期待されているほか、中期目標期間において営業収支及び経常収支の黒字化を実現することが求められている。

当機構では、北九州市から示された中期目標を実現するため、政策医療を着実に実施しつつ、経営基盤の安定化に向けて、理事長のリーダーシップの下、職員一丸となって取り組むこととしている。

【北九州市立病院機構の基本理念】

1. 常に安全・安心で患者さんに信頼される医療を提供します。
2. たゆまず研鑽を積み、技能を磨き、最高の医療を提供します。
3. 地域との連携の下に、市民の病院としての役割を果たします。
4. 優秀な医療人材を育成し、地域社会に貢献します。

II 財務に関する情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	27,402	固定負債	24,945
有形固定資産	25,730	資産見返負債	1,479
無形固定資産	443	長期借入金	765
投資その他の資産	1,229	移行前地方債償還債務	15,647
流動資産	6,137	引当金	6,548
現金及び預金	262	資産除去債務	143
医業未収金	3,990	長期リース債務	362
未収金	1,764	流動負債	6,969
医薬品	89	短期借入金	1,650
診療材料	29	1年以内返済予定長期借入金	88
前払費用	0	1年以内返済予定移行前地方債償還債務	1,775
その他流動資産	3	預り補助金等	1
		寄附金債務	3
		医業未払金	1,845
		未払金	448
		未払消費税等	14
		預り金	115
		引当金	926
		短期リース債務	95
		その他流動負債	8
		負債合計	31,914
		純資産の部	金額
		資本金	1,594
		利益剰余金	31
		純資産合計	1,625
資産合計	33,539	負債純資産合計	33,539

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致していないものがある。

(2) 損益計算書

(単位:百万円)

科目	金額
営業収益	30,056
医業収益	20,653
看護師養成収益	53

運営費負担金収益	4, 3 4 3
補助金等収益	4, 9 4 2
寄附金収益	1
資産見返運営費負担金戻入	1 2
資産見返補助金等戻入	4 8
資産見返寄附金等戻入	3
営業費用	2 8, 5 0 6
医業費用	2 6, 8 3 0
看護師養成費用	1 8 4
一般管理費	4 5 8
控除対象外消費税等	9 7 1
資産に係る控除対象外消費税償却	6 3
営業利益	1, 5 5 1
営業外収益	2 6 4
運営費負担金収益	7 1
補助金等収益	7
その他営業外収益	1 8 6
営業外費用	1 4 1
財務費用	1 3 7
その他営業外費用	4
経常利益	1, 6 7 4
臨時利益	1 9
臨時損失	6 8
当期純利益	1, 6 2 5
当期総利益	1, 6 2 5

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致していないものがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	金 額
業務活動によるキャッシュ・フロー	2, 2 8 0
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3 8 6
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 2, 9 2 9
資金増加額	▲ 1, 0 3 5
資金期首残高	1, 2 9 7
資金期末残高	2 6 2

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致していないものがある。

(4) 行政サービス実施コスト計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額
業務費用	7, 799
損益計算書上の費用 (控除) 自己収入等	28, 714 ▲20, 915
引当外退職給付増加見積額	▲17
機会費用	2
行政サービス実施コスト	7, 784

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

2 重要な施設等の整備の状況

該当なし

3 予算及び決算の概要

(1) 業務量 (法人全体)

項 目		予 算 (A)	決 算 (B)	比較 (B-A)
入院	稼働病床数 (床)	834	834	0
	病床利用率 (%)	86.5	67.3	▲19.2
	1日平均患者数 (人)	721.7	561.6	▲160.1
	年間延べ患者数 (人)	263,406	204,969	▲58,437
	診療単価 (円)	62,857	66,136	3,279
外来	1日平均患者数 (人)	1,686.7	1,416.2	▲270.5
	年間延べ患者数 (人)	409,871	344,136	▲65,735
	診療単価 (円)	17,776	19,595	1,819

(2) 予算及び決算の概要 (法人全体)

(単位:百万円)

項 目	予 算 (A)	決 算 (B)	比較 (B-A)
収入	29,212	32,651	3,440
営業収益	28,128	30,028	1,899
医業収益	24,683	20,688	▲3,996
運営費負担金収益	3,351	4,343	992
補助金等収益	35	4,942	4,907
その他	59	54	▲5
営業外収益	262	280	18
運営費負担金収益	74	71	▲3
その他営業外収益	188	209	21

臨時利益	0	0	0
資本収入	8 2 1	2, 3 4 3	1, 5 2 2
長期借入金	8 2 1	2 9 7	▲ 5 2 4
短期借入金	—	1, 6 5 0	1, 6 5 0
運営費負担金	—	1 4 7	1 4 7
補助金等	—	2 4 6	2 4 6
その他資本収入	—	3	3
支出	2 9, 6 3 4	3 1, 6 4 2	2, 0 0 8
営業費用	2 5, 9 5 0	2 5, 7 3 6	▲ 2 1 4
医業費用	2 4, 9 4 5	2 5, 1 3 9	1 9 5
給与費	1 4, 1 5 3	1 4, 2 6 2	1 0 9
材料費	6, 6 8 7	6, 6 8 2	▲ 5
経費	3, 9 9 3	4, 1 4 6	1 5 2
その他	1 1 1	5 0	▲ 6 2
一般管理費	8 3 2	4 4 2	▲ 3 9 0
給与費	2 3 2	2 4 7	1 6
経費	5 9 0	1 9 5	▲ 3 9 5
その他	1 0	—	▲ 1 0
その他	1 7 4	1 5 5	▲ 1 9
営業外費用	1 9 6	1 7 4	▲ 2 2
臨時損失	1	3	2
資本支出	3, 4 8 7	5, 7 2 9	2, 2 4 2
建設改良費	8 8 5	8 9 7	1 3
投資	—	1 8	1 8
償還金	2, 6 0 2	4, 8 1 4	2, 2 1 1
単年度資金収支	▲ 4 2 2	1, 0 0 9	1, 4 3 1
年度末資金剰余	2, 3 0 4	3, 7 3 6	1, 4 3 1

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

Ⅲ 事業に関する説明

1 法人の総括と課題

独法化2年目となる令和2年度は、当機構の総力を挙げて新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）対策に取り組んだ1年となった。

独法化以降、理事長のリーダーシップによるマネジメント体制を構築したことにより、医療センターと八幡病院が協調して市立病院としての使命を積極的に果たす方向で意思統一し、福岡県や北九州市の要請に応じて、機構全体で迅速に対策を講じてきた。

医療センターと八幡病院では、市内での感染拡大の早い段階から、疑似症患者の外来診療や入院患者の受入に積極的に対応してきたほか、10月の福岡県による重点医療機関の指定を機に、入院受入病床を増床し、これまで北九州地域における入院患者を最大限に受け入れるなど、北九州市内医療機関の中心的な役割を担ってきた。

一方、医療センターと八幡病院では、新型コロナ患者の入院受入に伴い、一般病床の一部休止や手術制限等を行ったほか、市民や患者の受診控え等もあって、患者数が急激に減少し、病院経営は大きな打撃を受けた。そのため、7月に「経営戦略会議」を立ち上げ、多職種で構成する医療と経営両面での特命チームを編成し、機構全体でコロナ禍における経営再建の実現に向けた取組みを開始した。

医療面では、院内感染防止を徹底しつつ、柔軟で機動的な病床再編や資材調達等に取り組むとともに、経営面では、様々な収益増加・費用削減の取組みを加速させることにより、新型コロナ患者を受入れながら、機構独自での大幅な収支改善を実現した。また、コロナ後を見据え、経営コンサルタントの支援を受けながら、抜本的な改革に取り組む準備も行ってきた。

こうした取組みに加え、新型コロナに関する国・福岡県の補助制度を最大限に活用したことや、感染症医療等に対する北九州市からの運営費負担金が適切に交付されたこと等もあり、令和2年度は経常収支の黒字化を達成することができた。しかしながら、病院経営を取り巻く環境は依然として厳しく、当機構が市民に必要な医療を安定的・継続的に提供していくためには、経営の安定化が不可欠である。

今後は、医師をはじめとする優秀な人材の獲得、治験・臨床研究の推進、働き方改革など中期計画に基づく施策を推進しつつ、抜本的な改革を含めた一層の収支改善に職員一丸となって取り組むこととしたい。

2 大項目ごとの特記事項

(1) 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 政策医療の着実な実施

当機構が担う政策医療である感染症医療、周産期医療、小児救急を含む救急医療及

び災害時における医療の提供については、効果的かつ効率的な運営に努めた。

特に、感染症医療については、新型コロナ感染拡大を受けて、市内唯一の第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても積極的に外来診療・入院受入れを実施した。また、福岡県からの重点医療機関の指定を機に、入院受入病床を増床するなど、当機構の2病院が北九州市内医療機関の中核的な役割を担った。

イ 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実

医療センターにおいては、地域がん診療連携拠点病院（高度型）として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療機器「リニアック」を活用し、高度で専門的な医療を提供した。また、がん患者や家族の支援機能を充実させるため、がん看護外来、緩和ケアセンター、薬剤師外来、がん相談支援センター、チーム医療の強化に取り組んだ。

八幡病院においては、新型コロナの影響により小児感染症患者が減少している状況を踏まえ、小児血液・腎臓・アレルギー専門医の獲得を進め、専門性の強化を図った。また、小児集中治療室（P I C U）・無菌室を活用した専門医療を提供したほか、小児患者の在宅医療の支援にも取り組んだ。

ウ 医療の質の確保

人材の確保・育成については、担当課長を新設してリクルート活動を強化したほか、職員採用計画に基づき、適宜採用試験を実施することで、多様な職種の人材確保に努めた。また、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境を整備するため、医師事務作業補助者や病棟クランクを増員して、医師・看護師の負担軽減を図るとともに、資格取得支援制度や教育研修制度の構築に向けた検討を進めた。

医療の質の確保・向上については、医療の多様化や複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携する「チーム医療」の推進に取り組んだほか、医療の標準化に向けてクリニカルパスの件数や適用率の向上に努めた。また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や「ハイブリッド手術室」を活用し、医療の高度化に対応するための取組みを進めた。

医療安全の徹底については、新型コロナに適切に対応するため、患者受入体制・院内感染防止・資材調達等について、病院内での体制構築を行った。また、機構本部に新設した広報担当ラインが窓口となり、災害や医療事故の情報を集約することで、初動の迅速化を実現した。

医療に関する調査・研究については、機構全体で治験・臨床研究を推進していくため、治験コーディネーターを採用するとともに、臨床研究推進室を設置した。

エ 市民・地域医療機関からの信頼確保

患者サービスの向上については、院内のレイアウト変更や設備等の整備により、患者からの要望が強い受付・診察の待ち時間の短縮に取り組んだ。また、広報体制を強化し、患者満足度調査の見直しのほか、ホームページの内容を充実させた。

地域医療機関等との連携については、新型コロナの影響により訪問活動が制限される中、可能な限りヒアリングやアンケートを実施し、課題の把握や改善策の検討を行

ったほか、医療連携室の機能強化に取り組んだ。

また、医療センターと八幡病院の連携については、テレビ会議システムを導入して遠隔で相互のカンファレンスや会議を開催できる体制を整備したほか、各病院の専門分野における相互の患者紹介を推進するとともに、新たに医師や診療放射線技師の人事交流にも取り組んだ。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 収入増加・確保対策

病床利用率の向上については、新型コロナの影響により患者数が減少する中で、営業活動や救急受入体制の強化、ベッドコントロールの運用見直しを行うことで、一般病床の稼働率向上に努めた。また、経営本部会議等を活用して、目標管理による達成状況の確認、原因の分析や課題への対策に努めた。

適切な診療報酬の確保については、医療事務の処理能力の強化に向けて、専門的知識や経験を有する人材を獲得したほか、医学管理料算定率向上やDPCマネジメントなど経営改善に関する取組みを機構全体で情報共有した。また、最新の診療報酬制度に的確に対応するため、新たな施設基準の取得に取り組んだほか、査定減比率の向上や未収金対策にも取り組んだ。

イ 経費節減・抑制対策

コスト削減の推進については、各病院と機構本部が連携して医薬品や診療材料の価格削減に向けた取組みを進めたほか、医療機器等の保守契約の見直しや後発医薬品の採用率向上に取り組んだ。また、コストだけでなく、事務効率化の観点から、複数年契約や両病院の委託契約の一本化も推進した。

医療機器等の有効活用及び計画的な整備については、両病院の電子カルテの共通化の検討を進めたほか、医療機器等の初期投資だけでなくランニングコストも含めた総合的な投資計画の策定に向けた準備に着手した。

ウ 自立的な業務運営体制の構築

マネジメント体制の確立については、新たに経営戦略会議を立ち上げ、医療面・経営面において、新型コロナに迅速に対応できる体制を構築した。また、病院経営に精通した民間人材を登用して病院事務局の組織体制を強化したほか、シンボルマークを使用したピンバッジの製作など、職員が一丸となって病院運営にあたるための組織風土づくりにも取り組んだ。

職員の経営意識の向上については、病院運営や経営状況等を職員にリアルタイムに提供するため、職員向けの経営状況説明会、職員向け広報誌、グループウェアを活用した情報発信等にも継続して取り組んだ。

法令・行動規範の遵守等については、ハラスメントの防止に向けて、新たに弁護士による外部相談窓口も開設したほか、職員向けの啓発や研修の実施に取り組んだ。

エ 職場環境の充実

働きやすく、長く働き続けることができる職場環境を構築するため、「働き方改革研

究会」の提言に基づく施策を推進したほか、医療スタッフの負担軽減やタスクシフティングの推進、院内保育所における病児保育の開始、時間外勤務削減や有給休暇の取得促進に向けた取組みを強化した。

(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 財務基盤の安定化

財務基盤の安定化については、月次決算や部門別の目標達成状況の分析・共有により、目標管理による効率的な病院運営に努めるとともに、医師については目標達成に対するインセンティブ制度の導入を決定した。

令和2年度の経営状況については、新型コロナの影響により経営は大きな打撃を受けたものの、独自の収支改善に取り組んだほか、国・県からの補助金の交付、市からの運営費負担金の追加支援を受けることで、営業収支及び経常収支の黒字化を実現した。

また、新型コロナが収束し、仮に、国・県からの補助金が廃止された場合でも経常収支の黒字化を実現するため、経営コンサルタントの支援を受けながら、抜本的な改革に取り組む準備も開始した。

イ 運営費負担金のあり方

運営費負担金については、不採算医療である感染症医療や周産期医療などの政策医療を着実に実施していくため、市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と必要な協議を行った。

(4) その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

ア 看護専門学校運営

看護専門学校については、臨床看護及び教育の質の向上に向けて、優秀な教員人材の確保、教員の外部研修への参加などを実施するとともに、教育環境の整備や学習教材の充実にも取り組んだ。また、市内の看護学校との比較調査を実施し、実習費等について学生負担の見直しを決定した。

イ 施設・整備の老朽化対策

建築後25年以上を経過した医療センターの施設や設備等の老朽化対策について、機構内部での調査・研究を実施した。

ウ 市政への協力

市との緊密な連携体制の構築に向けて、市幹部と機構幹部の意見交換や、機構内部会議への担当部局のオブザーバー参加などにより情報共有に努めた。また、新型コロナ対策については、福岡県や北九州市の要請に応じて、積極的に入院受け入れを行うなど、当機構の2病院が市内医療機関の中心的な役割を果たした。

項目別の状況

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (1) 感染症医療
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 感染症医療</p> <p>医療センターにおいて、市内で唯一の「第二種感染症指定医療機関」として、二類感染症や新型インフルエンザの受け入れに関して中核的な役割を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症が発生した場合は、市の対策部門と密接な連携を図りながら、患者の収容・治療に迅速に対応する。 ○ 二類感染症患者の長期入院等に備えた体制を確保するとともに、二類感染症に対応できる専門的な知識と技術を有する職員の育成に努める。 ○ 感染症発生時に備え、検査試薬や医薬品等の十分な数量の確保に努めるとともに、関係機関と連携して必要な対策・訓練を実施する。 	<p>(1) 感染症医療</p> <p>医療センターにおいて、市内で唯一の「第二種感染症指定医療機関」として、二類感染症や新型インフルエンザの受け入れに関して中核的な役割を担う。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症患者の長期入院等に備えた体制の整備 ○ 二類感染症に対応できる職員の育成 ○ 検査試薬や医薬品の十分な数量の供給体制の整備 ○ 関係機関との連携による対策等の実施に向けた検討 ○ 感染症医療の提供体制の適正化に向けた検討

中期目標 (内容)	医療センターにおいて、「第2種感染症指定医療機関」としての役割を果たすこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 感染症医療</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を受けて、市内唯一の第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても、積極的に外来診療・入院受入れを実施した。また、県からの重点医療機関の指定を機に、入院受入病床を増床するなど、当機構の2病院が市内医療機関の新型コロナ対策の中核的な役割を担った。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症患者の長期入院に備えた看護体制の見直しについては、新型コロナ対応を優先し、今後の検討課題とした。一方、新型コロナに適切に対応するため、各病棟からの看護師等の応援体制を構築した。 ○ 二類感染症に対応できる職員の育成のため、院内の感染対策研修会を実施するとともに、感染管理認定看護師の養成研修に職員を派遣した。 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナに対応できる職員を育成するための研修会を実施、医療センターで2回、八幡病院で2回 ・個人防護服着脱訓練等の実地研修を適宜実施 ・感染管理認定看護師の養成研修に1名派遣 ○ 薬剤払出しについて、土日の搬送を開始したことで、在庫の適正管理ができるようになり、各部署からの返品薬も大幅に減少した。 ○ 新型コロナ対策について、福岡県・北九州市の要請に応じて対応した。 <ul style="list-style-type: none"> ・4月から、2病院ともに入院受入病床を18床確保、院内応援体制を確立 ・10月から、2病院ともに県から重点医療機関に指定されたことを機に、入院受入病床を20床に拡大 ・12月から、医療センターが県から診療・検査医療機関に指定、八幡病院において小児向けドライブスルーPCR検査を開始 ・2月から、医療センターの入院受入病床を22床に再拡大 ○ 感染症医療の提供体制の適正化に向けた検討は、新型コロナ対応を優先し、今後の検討課題とした。一方、感染症病棟の施設や設備上の問題点を含めた医療センターの老朽化対策について、機構内部での調査・検討を行った。 ○ そのほか、新型コロナ対応のために近隣病院から臨時的に専門医師（3名）の派遣を受け入れ、患者受入体制の強化を図るとともに、感染拡大時の受入基盤強化に向けた実地研修として活用した。また、医療センターにおいて、新型コロナ陽性患者の手術2件・分娩2件を実施した。 	5	5	<p>新型コロナウイルス感染症に対し、第二種感染症指定医療機関である医療センターに加えて、八幡病院においても、積極的かつ機動的に対応し、市全体の入院患者数の約4割を受け入れるなど、新型コロナウイルス感染症患者受入れの重点医療機関として、中心的な役割を果たした。また、感染拡大に対応するためにハード・ソフト両面での整備を進めたこと、病院スタッフの迅速な対応や尽力などを踏まえ、評価「5」とした。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (2) 周産期医療
--------------	---

中期計画	年度計画
(2) 周産期医療 医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供する。 ○ 胎児要因や母体要因による母体搬送の受け入れ、緊急分娩や異常分娩への小児科医の立ち会い、新生児外科疾患の手術などの診療を24時間体制で行うなど、ハイリスク妊娠やハイリスク新生児の診断・加療について北九州市とその近郊において中心的な役割を担う。	(2) 周産期医療 医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供する。 【令和2年度の取組み】 ○ 周産期医療の提供体制の適正化に向けた検討

< 関連指標 >

項目	医療センター		
	平成29年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績
母体搬送件数	112件	98件	70件
NICU受入患者数	2,009件	2,476件	1,958件

※母体搬送やNICU受入は、市内4ヶ所の周産期医療機関の役割分担によって行われている。

中期目標 (内容)	医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供すること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 周産期医療</p> <p>医療センターにおいて、周産期母子医療センターとして、24時間体制でハイリスク妊娠や新生児に高度で専門的な医療を提供し、北九州地域における中心的な役割を担った。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 周産期医療の提供体制の適正化に向けて、市の協力も得ながら関係機関との調整に取組み、地域全体の医療提供機能を踏まえた運用（紹介患者の分娩対応）を行った。</p>	3	3	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の中、母体搬送件数 [R1:98 件→R2:70 件]、NICU 受入患者数 [R1:2,476 件→R2:1,958 件] とともに減少したが、総合周産期母子医療センターを 24 時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しているため、評価「3」とした。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (3) 小児救急を含む救急医療
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(3) 小児救急を含む救急医療 八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、救急外来施設の充実等により、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する。 ○ 特に小児医療については、小児科外来の充実や小児集中治療室(PICU)の整備等により、初療から集中治療を要する場合まで24時間365日対応できる環境を整え、適切な医療を提供する。 ○ 救急患者に対する適切な医療を提供するため、救急科及び関連診療科の医師確保に努めるとともに、救急科専門医及び初期研修医の基幹研修施設等として、人材育成を通じて救急受入れ体制の強化に取り組む。 	<p>(3) 小児救急を含む救急医療 八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を果たす。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急外来施設の充実等 ○ 小児科外来の充実 ○ 小児集中治療室(PICU)・無菌室等の活用 <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急科及び関連診療科の医師確保 <ul style="list-style-type: none"> ○ 人材育成を通じた救急受入れ体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急医療に関する専門人材の雇用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 救命救急士の採用 <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急車応需率の向上

<関連指標>

項目	八幡病院			
	平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和5年度 目標
救急車応需率	96.3%	94.0%	80.6%	98.5%
救急受入件数	3,567件	3,604件	3,053件	—
救急患者手術件数	306件	342件	350件	—
小児救急ウォークイン患者数	29,509人	30,402人	15,769人	—

※ 救急車応需率＝救急車受入数÷救急要請数。

※ 小児救急ウォークイン患者数は、救急車を利用せずに時間外に受診した患者数。

中期目標 (内容)	八幡病院において、「救命救急センター」及び「小児救急センター」としての役割を果たすこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 小児救急を含む救急医療</p> <p>八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を担った。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>＜施設・設備の整備等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナの影響による小児患者の大幅な減少があったものの、救急外来、小児科外来、小児集中治療室（P I C U）、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P I C Uは小児患者の集中治療等に活用、稼働率40%（昨年度50%） ・ 無菌室は白血病等の小児がん患者を対象に活用、稼働率43%（昨年度75%） <p>＜院内体制の充実・強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急科及び関連診療科の医師確保に向けて、理事長・院長等による大学医学部等への働きかけを行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問回数27回（九州大学、産業医科大学、福岡大学） ・ 小児血液腫瘍内科医の採用（10月から1名、令和3年4月から1名） ○ 初期研修医5名のほか、他病院の研修医を受け入れ、人材育成を通じた救急医受入れ体制の強化を行った。 ○ 救急医療に関する専門人材として、救急救命士を4月から2名採用した。 ○ 内科系医師の不足、新型コロナ対応による救急受入制限、小児患者の大幅な減少があったものの、可能な限り患者を受け入れることに努め、救急車応需率は80%以上を維持した。 	3	3	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、八幡病院では、救急受入件数[R1:3,604件→R2:3,053件]、救急車応需率[R1:94.0%→R2:80.6%]、小児救急ウォークイン患者数[R1:30,402人→R2:15,769人]と大幅に減少した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の重点医療機関のひとつとして、患者受入等していることを考慮し、評価「3」とした。</p> <p>一方で、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、救命救急センターの役割を担うためには、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する体制を整備する必要があり、引き続き内科系医師など医師の確保や院内体制の見直し及び充実・強化に向けた取り組みを期待する。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (4) 災害時における医療
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 八幡病院において、北九州市地域防災計画や北九州市医師会医療救護計画に基づき、市及び北九州市医師会の指示の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害発生時には院内に災害医療・作戦指令センター(DMOC)を設置し、関係機関と連携して医療支援を行う。 ○ 災害医療研修センター(DMEC)において、災害時に迅速かつ効果的な医療救護活動ができる人材を育成する。 ○ 災害医療コーディネーターが派遣される施設として、北九州地域の災害医療に対応する。 ○ 県内最大規模の屋上ヘリポートを活かし、広域から傷病等患者の受け入れを行うとともに、海上保安庁と連携し水難事故に対応する。 ○ 隣接する八幡薬剤師会と連携し、災害時に迅速かつ十分な薬品供給体制を構築する。 <p>イ 医療センター、八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害拠点病院として、災害発生時には24時間体制で災害疾病者の受け入れ及び搬出、被災病院、避難所・救護所等への支援を行うとともに、被災地に災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣を行う。 	<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 八幡病院において、北九州市地域防災計画や北九州市医師会医療救護計画に基づき、市及び北九州市医師会の指示の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たす。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DMOC訓練の継続的な実施 ○ 災害医療研修センターにおける人材育成 ○ 屋上ヘリポートの活用(広域からの患者受け入れ) ○ 災害時の迅速かつ十分な薬品供給体制の構築 <p>イ 医療センター、八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たす。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の適切な対応

<関連指標>

項目	医療センター			八幡病院			
	基本計画	令和元年度	令和2年度	基本計画	令和元年度	令和2年度	
日本DMAT登録隊員数	医師	2人	1人	1人	5人	6人	6人
	看護師	2人	2人	2人	4人	7人	6人
	業務調整員	1人	2人	2人	2人	4人	4人
福岡県DMAT登録隊員数	医師	2人	2人	2人	5人	1人	1人
	看護師	8人	6人	8人	3人	3人	2人
	業務調整員	6人	6人	8人	3人	2人	2人
DMAT等派遣回数/人数	平成29年度			平成29年度			
		1回/5人	0回/0人	1回/3人	1回/3人	0回/0人	1回/4人

中期目標 (内容)	<p>ア 八幡病院において、市及び北九州市医師会との連携の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たすこと。</p> <p>イ 医療センター及び八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たすこと。</p> <p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 災害拠点病院の統括病院としての役割</p> <p>八幡病院において、災害時における市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たすための取組みを行った。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、DMOC訓練は実施を見送ったが、3月に災害医療連絡協議会を開催し、各団体との連携を確認した。 ○ 災害時に備え、災害医療研修センターにおける人材育成に向けた取組みを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内関連会議開催 4回 ○ 海上保安庁や市消防局ヘリコプターによる離着訓練を実施するとともに、患者受入れ等で屋上ヘリポートを適切に活用した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋上ヘリポート使用回数 5回 ○ 災害時の迅速かつ十分な薬品供給に向けて、八幡薬剤師会と協定を締結し、有事に備えている。 <p>イ 災害拠点病院としての役割</p> <p>医療センター、八幡病院において、災害時の適切な対応により、「災害拠点病院」としての役割を果たすための取組みを実施した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療センターへの災害情報配信システムの導入のほか、熊本県豪雨災害へのDMATの派遣を行った。 	3	3	<p>災害時における医療について、災害発生時に備えた取り組みや、被災地にDMAT派遣を行うなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p>

中期計画	年度計画
<p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備する。</p> <p>○ 医療センターにおいては、国の基準に基づいて非常用電源や備蓄資材（食糧・飲料水、医薬品等）を確保するとともに、業務継続計画（BCP）を策定し、災害時には、病院機能を維持した上で、全ての患者に医療を提供できるよう努める。</p> <p>ただし、災害拠点病院としての機能を果たすためには、免震構造、ライフライン機能の維持、災害活動スペース等を備えることが望ましいが、現病院の施設、設備では十分でないことから、施設の老朽化対策に合わせて、将来的な施設や設備のあり方について検討していく。</p> <p>○ 八幡病院においては、国の基準に基づいて非常用電源や備蓄資材（食糧・飲料水、医薬品等）を確保し、災害時においても病院機能を維持するとともに、全ての患者に医療を提供できるよう、業務継続計画（BCP）を策定し、適切に運用する。</p>	<p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備する。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>＜医療センター＞</p> <p>○ 国の基準に基づく非常用電源や備蓄資材の整備</p> <p>○ 業務継続計画（BCP）の適切な運用</p> <p>○ 災害に対する施設や設備のあり方の検討</p> <p>＜八幡病院＞</p> <p>○ 国の基準に基づく非常用電源や備蓄資材の確保</p> <p>○ 業務継続計画（BCP）の適切な運用</p>

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ 災害時における医療提供</p> <p>災害時における医療提供について、病院自体が被災することも想定し、対応策の準備に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度取組み】</p> <p><医療センター></p> <p>○ 災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上水は4日分を確保。雑用水は3日以上連続供給可能 ・ 電力は、自家発電機を2台設置しているほか、燃料用の重油タンクの増設を検討 ・ その他、食料3日分、飲料3日分、医薬品7日分、診療材料3日分のほか、医療ガスも確保 <p>○ 災害時に備え、BCP委員会において、業務継続計画（BCP）に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害医療対策研修、火災対応研修の実施 ・ 大規模災害対応訓練方針の検討 ・ 水害対応物品の選定を実施 <p>○ 災害対策を含め、医療センターの老朽化対策について、機構内部で調査・研究を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期点検資料等により、施設や設備の法定耐用年数や標準更新周期を把握 ・ 設備等の製造年月日や、これまでのメンテナンス状況を一覧にした台帳を作成し、今後10年間で必要となる改修や設備更新にかかる費用の調査を実施 <p><八幡病院></p> <p>○ 災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上水は3.5日分、雑用水は3日分を確保 ・ 電気は大容量自家発電機を設置。3日以上運転可能な重油を確保 ・ その他、食料3日分、飲料3日分、医薬品7日分、診療材料4日分のほか、医療ガスも確保 <p>○ 災害時に備え、BCP委員会において、業務継続計画（BCP）に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害想定訓練の実施 			

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 各病院の特色を活かした医療の充実 (1) 医療センター
--------------	--

中期計画	年度計画
------	------

<p>(1) 医療センター</p> <p>ア がん医療について、地域がん診療連携拠点病院として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療を提供する。</p> <p>また、がんゲノム中核拠点病院との情報共有・連携体制の構築に努め、がんゲノム医療連携拠点病院としてがん医療の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ロボット支援下手術による低侵襲外科手術を実施するため、手術支援ロボットの導入を検討する。検討に当たっては、導入による効果を慎重に見極めることとする。 ○ 定位放射線治療や強度変調放射線治療等の高度な放射線治療を提供するため、リニアックの更新を検討する。 ○ 高精細な画像によって診断能力が向上し、より確かな診断を迅速に提供するため、磁気共鳴コンピュータ断層装置(MRI 3.0T)の増設を検討する。 	<p>(1) 医療センター</p> <p>ア がん医療について、地域がん診療連携拠点病院(高度型)として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療を提供する。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がんゲノム中核拠点病院との連携体制等の構築 ○ がんゲノム医療連携病院としてのがん医療の充実 ○ 手術支援ロボットの活用 ○ リニアックの積極的な活用 ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設の検討
--	---

<関連指標> 医療センター

項目	平成29年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績
がん患者数	4,935人	4,869人	4,844人
化学療法件数	17,140件	15,538件	16,632件
放射線治療件数	12,179件	11,781件	10,682件

中期目標 (内容)	<p>ア がん医療について、「地域がん診療連携拠点病院」として、高度で専門的な医療を提供すること。</p> <p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させること。</p> <p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努めること。</p> <p>エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 医療センター</p> <p>ア 高度で専門的ながん医療の提供</p> <p>地域がん診療連携拠点病院（高度型）として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療の提供に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム中核拠点病院である九州大学病院との連携体制を構築し、エキスパートパネル（治療方針を決定する専門家会議）を円滑に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ エキスパートパネル実施回数 20回 ○ 一人ひとりのがん遺伝子変異に合わせた治療等を行う「がんゲノム医療」を適切に提供するため、ホームページの見直しを行い、情報発信を強化した。 ○ 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術件数は、新型コロナウイルス対応に伴い年度当初に手術制限を行ったものの、泌尿器科で「膀胱全摘術」を追加するなど、順調に増加している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外科54件（昨年度24件） ・ 泌尿器科71件（昨年度9件） ○ 放射線治療機器「リニアック」のIMRT（強度変調放射線治療）の適応を拡大し、2月から頭部定位照射を開始した。 ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置については、増設ではなく1.5Tから3.0Tへの置換えを前提に、医療センターにおいて検討を行った。 	4	4	<p>地域がん診療連携拠点病院（高度型）として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用が進み、リニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の適応が拡大するなど、高度で専門的な医療の提供体制が充実した。</p> <p>また、緩和ケアセンターや薬剤師外来、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を充実させる取組みや、連携ネット北九州などがん治療に関する地域医療機関との連携の強化を進めた。</p> <p>新型コロナウイルスによる受診控えの影響を受けつつも、医療センターの特色であるがん診療の充実を進めた。</p> <p>さらに、生活習慣病への対応強化のため、「糖尿病センター」を開設するとともに、せん妄や認知症への対応のため、常勤精神科医を採用した。</p> <p>以上のことから、評価「4」とした。</p>

中期計画	年度計画
<p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させる。</p> <p>○ 患者や家族の精神的なケアや生活面での不安・悩みに対応していくため、がん看護専門看護師及びがん分野の認定看護師の配置による「がん看護外来」の充実に取り組む。</p> <p>また、抗がん剤の副作用等への対策として、抗がん剤治療に関する専門知識と経験のある認定薬剤師を配置した「薬剤師外来」を開設するほか、医師・薬剤師・看護師のチーム医療により、がん患者や家族が意思決定しやすい体制を整備するなど、がん患者や家族の支援機能の強化に取り組む。</p> <p>○ 医療センターの患者や家族だけでなく、他院の患者や家族の不安・悩み等の相談に応えるため、「がん相談支援センター」の周知に取り組むとともに体制強化に努める。</p>	<p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させる。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ がん看護外来の充実</p> <p>○ 緩和ケアセンターの充実</p> <p>○ 薬剤師外来の充実</p> <p>○ 医師・看護師等によるチーム医療の充実</p> <p>○ がん相談支援センターの充実</p>

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ がん患者や家族の支援機能の強化 患者や家族の精神的なケアや生活面での不安・悩みに対応していくため、がん患者や家族の支援機能を強化した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 移植後フォローアップ外来を開設（4月）、インフォームドコンセントへの看護師同席による患者の意思決定支援・不安緩和など、がん看護外来の充実に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師1名がクリティカルケア認定看護師の資格を取得、がん分野の認定看護師数は15名に増加 ・ 看護師1名が院内初となる専門看護師資格（がん分野）を取得 ・ がん分野の認定看護師による介入事例は2,432件（昨年度1,797件） ○ 多職種による支援を行う「緩和ケアセンター」の支援機能を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「つらさのスクリーニング」の対応部署を拡大、実施件数は1,198件（昨年度872件） ・ STAS-J（医療専門職による他者評価）を用いて、緩和ケアの成果と質の高さを客観的に評価 ・ ピアレビュー（医師による他社評価）について、北九州圏域の地域がん拠点病院と調整の上、3月に実施、レビューまとめ中 ○ 抗がん剤の副作用等への対策を行う「薬剤師外来」について、抗がん剤治療に関する専門知識と経験のある認定薬剤師を増員するなど、機能を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認定薬剤師数 3名（昨年度1名） ・ 延患者数 2,096人（昨年度1,772人） ○ 医師・看護師等によるチーム医療を充実させるための活動を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「摂食嚥下支援チーム」の令和3年4月立ち上げに向けた準備を開始 ○ 市民や患者の不安・悩み等の相談に応えるため、「がん相談支援センター」の体制を強化するとともに、周知に向けた広報活動を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の相談支援シートを作成・活用することで、スタッフ間の情報共有を強化 ・ 10月から、病状理解のための整理シート「私のチェックシート」を利用した相談を開始 ・ 12月から、新型コロナ感染拡大防止のために中止していた「がんサロン」を再開 ・ がん相談支援センター及び就労両立支援のパンフレットを作成し、私のチェックシートとともに院内に設置 ・ 相談については、FAX・メール等では対応が難しい案件も多いため、原則面談方式で実施 ・ がん相談件数858件（昨年度1,086件） 			

中期計画	年度計画
<p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がん医療における医療機関の役割分担を尊重しながら連携を推進していくため、医療従事者の資質向上に向けた情報提供や研修の開催等、地域全体のレベルアップの貢献に努める。 ○ インターネットでカルテの閲覧やCT・MRIの予約ができる「連携ネット北九州」の活用を促進する。 ○ 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に努める。 	<p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療従事者の資質向上に向けた情報提供等 ○ がん医療における「連携ネット北九州」の活用促進 ○ 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及促進

<関連指標> 医療センター

項目	平成29年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和5年度目標
連携ネット北九州新規登録患者数	558件	1,186件	1,159件	700件

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携強化</p> <p>医療従事者への情報提供や研修の開催等を通じて地域全体のレベルアップに努めるなど、がん医療に関する地域医療機関との役割分担と連携を推進した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療従事者の資質向上に向けて、研修会を実施したほか、国や県が実施する研修会等について、地域の医療従事者への周知に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月に緩和ケア研修会を実施 ○ 「連携ネット北九州」の活用促進に向けて、医療機関の訪問やチラシ郵送等によるPR活動に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月末時点の活用医療機関数は156箇所（昨年度150箇所） ○ 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に向けて、県内関係者とWEBミーティングによる情報共有に取り組んだ。 			

中期計画	年度計画				
<p>エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活習慣病に対応するため、地域医療機関と連携し、糖尿病や脳卒中、循環器疾患、代謝疾患等に対応していくため、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師でのチーム医療が提供できるように体制を強化する。 ○ 膠原病や甲状腺疾患といった地域医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。 ○ 肩・肘関節疾患、スポーツ障害・脊椎疾患に対応するため、低侵襲で早期退院が可能な脊椎内視鏡手術等の脊椎手術を実施する。 ○ せん妄や認知症に対応するため、もの忘れ外来の開設や常勤精神科医の採用に取り組む。 ○ 合併症や新生児疾患の対応等、総合的医療を提供できるように常勤眼科医の採用に取り組む。 ○ 児童福祉法に基づく「助産施設」としての役割を担う。 ○ 市立病院として、市民の命と健康を守るセーフティネットの役割を果たすよう努める。 <p>オ 医療センターにおいて、上記の医療を提供するための標榜診療科目及び病床数は、以下のとおりとする。</p> <p>ただし、標榜診療科目及び病床の実際の運用については、今後の医療需要の変化や診療機能の向上等に合わせて柔軟に対応していく。</p>	<p>エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活習慣病に対応するための体制強化 ○ 膠原病や甲状腺疾患に関する医療の提供 ○ 脊椎内視鏡手術等の脊椎手術の実施 ○ せん妄や認知症に対応するための体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常勤精神科医の採用 ○ 合併症や新生児疾患の対応等に関する医療の提供 				
<table border="1" data-bbox="92 1563 759 1989"> <thead> <tr> <th data-bbox="92 1563 568 1608">標榜診療科目</th> <th data-bbox="568 1563 759 1608">病床数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="92 1608 568 1989">内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科</td> <td data-bbox="568 1608 759 1989">許可病床数 636</td> </tr> </tbody> </table>	標榜診療科目	病床数	内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科	許可病床数 636	
標榜診療科目	病床数				
内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科	許可病床数 636				

実績及び法人自己評価		北九州市評価					
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等				
<p>エ その他必要とされる医療の提供 その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療の提供に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活習慣病への対応を強化するための取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月から「糖尿病センター」を開設し、糖尿病と糖尿病合併症の診療体制を強化 ○ 膠原病、甲状腺疾患について、専門医による外来診療を継続実施した。 ○ 脊椎内視鏡手術等の脊椎手術について、専門医による手術を継続実施した。 ○ 常勤精神科医の採用により、体制を強化した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に「認知症ケアチーム」を立ち上げ ・ 10月に「もの忘れ相談外来」を開設（週1回、院内紹介） ・ 認知症ケア加算算定件数 3,138件（昨年度1,893件） ○ 合併症や新生児疾患に対応するため、近隣病院等の協力を得て夜間当直応援医師を増員するなど医療提供体制を充実させた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月から「糖尿病センター」を開設し、糖尿病と糖尿病合併症の診療体制を強化 ・ 医療センターにおいて、来年度4月からの常勤眼科医1名の採用が決定 							
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">標榜診療科目</th> <th style="width: 50%;">病床数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科、肝臓内科、血液内科、感染症内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、乳腺外科、内分泌外科、消化器外科、大腸外科、肛門外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、食道外科、胃腸外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科</td> <td>許可病床数 636</td> </tr> </tbody> </table>		標榜診療科目	病床数	内科、肝臓内科、血液内科、感染症内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、乳腺外科、内分泌外科、消化器外科、大腸外科、肛門外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、食道外科、胃腸外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科	許可病床数 636		
標榜診療科目	病床数						
内科、肝臓内科、血液内科、感染症内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、乳腺外科、内分泌外科、消化器外科、大腸外科、肛門外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、食道外科、胃腸外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科	許可病床数 636						
<p>※ 標榜診療科目及び病床数の変更はなし。</p>							

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 各病院の特色を活かした医療の充実 (2) 八幡病院
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(2) 八幡病院</p> <p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門性の高い小児科医の確保や小児集中治療室(PICU)・無菌室の整備等により、「救急・集中治療」「児童虐待とその家族」「血液・腫瘍性疾患」「神経疾患・てんかん、医療的ケア児」に係る専門医療の充実と在宅医療の支援に取り組む。 ○ 小児科専門医の基幹研修施設として、人材育成を通じて、診療機能の強化に取り組む。 	<p>(2) 八幡病院</p> <p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図る。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門性の高い小児科医の確保 <p>○ 小児集中治療室(PICU)・無菌室等の活用 【再掲】</p> <p>○ 救急・集中治療等に係る専門医療の充実</p> <p>○ 在宅医療の支援</p> <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児科専門医の人材育成を通じた診療機能の強化
<関連指標>	
項目	八幡病院
	平成29年度実績 令和元年度実績 令和2年度実績
小児科患者数(外来)	51,681人 51,412人 32,424人
小児科患者数(入院)	34,156人 37,255人 21,894人

中期目標 (内容)	<p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図ること。</p> <p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組むこと。</p> <p>ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供すること。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2)八幡病院</p> <p>ア 小児医療の診療機能の充実 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実に努めた。 また、新型コロナの影響により小児感染症患者が減少している状況を踏まえ、小児血液・腎臓・アレルギー専門医の獲得を進め、専門性の強化を図った。</p> <p>【令和2年度の取組み】 ＜施設・設備の整備等＞ ○ 外部医療機関からの派遣により、様々な分野において専門性の高い小児科医を確保した。 ・ 免疫・膠原病・循環器・消化器・肝臓病・腎・代謝（久留米大学）、内分泌・代謝（産業医科大学）、神経てんかん（聖マリア病院）、アレルギー（国立病院機構福岡病院） ○ 新型コロナの影響による小児患者の大幅な減少があったものの、救急外来、小児科外来、小児集中治療室（P I C U）、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供した。 ・ P I C Uは小児患者の集中治療等に活用、稼働率40%（昨年度50%） ・ 無菌室は白血病等の小児がん患者を対象に活用、稼働率43%（昨年度75%） ○ 救急・集中治療等については、専門性の高い小児科医の確保やP I C U等の活用等により、質の高い医療を提供した。 ○ 介護している家族の休息等を目的とした「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の受入れ等を行った。 ・ レスパイト支援事業受入れ実績 1件・2日間（昨年度実績1件・4日間） ・ また、同支援事業以外においても、支援を要するかかりつけ患児に対し、レスパイト入院の受入れを実施</p> <p>＜院内体制の充実・強化＞ ○他病院の臨床研修医等を受入れて、将来を担う人材の育成に取り組んだ。 ・ 令和2年度の受入れ実績は小児科専門医1名、専攻医2名</p>	3	3	<p>新型コロナウイルスの影響による小児患者の減少はあったものの、小児医療については、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に必要な医療を提供しており、評価「3」とした。</p>

中期計画	年度計画
<p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害を持つ小児患者等を一時的に預かる福岡県及び北九州市が実施主体の「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に参加する等支援の充実に取り組む。 また、障害者やその家族が安心して生活が送れるよう医療面での支援を行う。 <p>ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 消化器・肝臓病センターを内科・外科・放射線科等の医師、薬剤師及び看護師等で横断的に組織化し、生活習慣や食生活の変化に伴い急増する消化器・肝臓病疾患に対して最新・総合的な医療を提供する。 ○ 心不全センターを内科・循環器内科・形成外科等の医師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師及び看護師等で横断的に組織化し、高齢化等に伴い急増する心不全患者に専門的な医療を提供するとともに、かかりつけ医療機関・介護施設・在宅との間を取り持つ役割を担うことで、地域全体で心不全患者を支援する体制を構築する。 ○ アメリカでも注目され、実践されている Acute Care Surgery（外傷急性期外科）の北九州市の中心となるべく、血管造影装置とCTを備えたハイブリッド手術室の機能を駆使して、最先端の医療を提供する。 さらに、外傷・形態修復・治療センターを外科・形成外科・整形外科等の医師、リハビリスタッフ及び看護師等で横断的に組織化し、外傷やその他の形態異常に対し機能的・整容的な再建を行うことで、患者のQOL（生活の質）の回復を目指す。 ○ 市立病院として、市民の命と健康を守るセーフティネットの役割を果たすよう努める。 	<p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業への参加 <p>ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 消化器・肝臓病センターの積極的な活用 ○ ハイブリッド手術室の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外傷急性期外科医療の提供 ○ 外傷・形態修復・治療センターの積極的な活用

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ 障害者や家族への医療支援の充実 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に努めた。</p> <p>【令和2年度取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護している家族の休息等を目的とした「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の受入れを行った。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ レスパイト支援事業受入れ実績 1件・2日間（昨年度実績1件・4日間） ・ また、同支援事業以外においても、支援を要するかかりつけ患児に対し、レスパイト入院の受入れを実施 <p>ウ その他必要とされる医療の提供 その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療の提供に努めた。</p> <p>【令和2年度取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師、看護師、薬剤師等で横断的に組織化した消化器・肝臓病センターにおいて、ハイブリッド手術室を活用した医療を提供した。 ○ ハイブリッド手術室を適切に活用し、外傷急性期外科医療の提供に努めた。また、手術症例の増加に向けて、診療案内冊子等で他医療機関への周知に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度の使用実績44件（昨年度54件） ○ 外傷・形態修復・治療センターにおいて、外科・整形外科・形成外科の医師、リハビリスタッフ及び看護師等の組織横断的なチームを編成して多方向からの集約的治療を実施した。また、手術症例の増加に向けて、診療案内冊子等で他医療機関への周知に努めた。 			

中期計画	年度計画				
<p>エ 八幡病院において、上記の医療を提供するための診療科目及び病床数は、以下のとおりとする。</p> <p>ただし、標榜診療科目及び病床の実際の運用については、今後の医療需要の変化や診療機能の向上等に合わせて柔軟に対応していく。</p> <table border="1" data-bbox="92 517 759 862"> <thead> <tr> <th data-bbox="92 517 587 562">標榜診療科目</th> <th data-bbox="587 517 759 562">病床数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="92 562 587 862">内科、精神科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科</td> <td data-bbox="587 562 759 862">許可病床数 350</td> </tr> </tbody> </table>	標榜診療科目	病床数	内科、精神科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科	許可病床数 350	
標榜診療科目	病床数				
内科、精神科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科	許可病床数 350				

実績及び法人自己評価		北九州市評価					
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等				
<p>※ 市民や患者に分かりやすく専門分野を示すため、以下のとおり標榜診療科の変更・新設を行った。なお、以下の変更・新設は、病院の機能を変更するものではない。</p> <p>(3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児血液・腫瘍内科、小児神経内科を新設 							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>標榜診療科目</th> <th>病床数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科、精神科、循環器内科、小児科、小児血液・腫瘍内科、小児神経内科、外科、内視鏡外科、消化器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、臨床検査科</td> <td>許可病床数 350</td> </tr> </tbody> </table>		標榜診療科目	病床数	内科、精神科、循環器内科、小児科、小児血液・腫瘍内科、小児神経内科、外科、内視鏡外科、消化器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、臨床検査科	許可病床数 350		
標榜診療科目	病床数						
内科、精神科、循環器内科、小児科、小児血液・腫瘍内科、小児神経内科、外科、内視鏡外科、消化器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、臨床検査科	許可病床数 350						

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (1) 人材の確保・育成
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療従事者の養成機関との連携を図るとともに、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努める。</p> <p>○ 医師については、大学等関係機関との連携強化や教育研修を充実させ、医師の負担軽減に向けて医師事務作業補助者を配置する等、医師が働きやすい環境づくりを行う。</p> <p>また、女性医師が安心して就業の継続や復職ができる環境の整備を行う。</p> <p>○ 看護師については、計画的に安定した優秀な人材を確保するため、看護学校の学生に対する充実した教育や実習の提供等により、卒業生の入職率を高める。</p> <p>また、看護師が看護業務に専念できる環境を整備するため、看護補助者の確保に努めるとともに、看護師の事務作業をサポートする職の配置やチーム医療の推進等に取り組む。</p> <p>さらに、認定看護師等の資格取得に際して、十分にバックアップするとともに、その専門性が発揮できるような勤務体制を構築する。</p> <p>○ 医療技術職については、柔軟な採用制度の下、経験者を含めた多様な職種の人材確保に努める。</p> <p>また、資格取得等の奨励・支援を行い、学会発表等の参加機会を確保できるよう配慮する。</p> <p>○ 事務職員については、プロパー化を進めるとともに、医療マネジメントができる事務職員を育成するため、院内教育の充実を図り、資格取得の支援に加え、セミナーや学会発表等の学習機会を提供する。</p> <p>また、事務職員の総合力を強化するため、定期的な部署間の異動等、計画的な育成に取り組む。</p>	<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療従事者の養成機関との連携を図りながら、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><全職種></p> <p>○ リクルート活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 採用・人材育成担当職員（専門職）の配置 <p><医師></p> <p>○ 医師の負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務作業補助者の増員及び定着に向けた制度構築 <p>○ 女性医師の就業環境の整備に向けた検討</p> <p><看護師></p> <p>○ 看護業務に専念できる環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護補助者の確保に向けた制度構築 ・ 事務作業サポート職の効果的な配置 <p>○ 資格取得支援のあり方の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい認定看護師制度における派遣研修の実施 <p>○ 専門性が発揮できる勤務体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認定看護師の専従配置

中期目標 (内容)	<p>ア 医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めること。</p> <p>イ 特に、医師の確保に当たっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実等に努めること。</p> <p>ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、先進的な事例や取組を習得できる教育研修制度を充実させること。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療スタッフの確保、職場環境の整備 医療従事者の養成機関と連携しながら、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><全職種></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機構本部に人材育成・採用担当課長を新たに配置し、リクルート活動を強化した。また、職員採用計画を策定し、職種ごとに複数回の採用試験を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リクルート活動として、就職説明会参加（1回）、学内説明会開催（1回）、看護学校訪問（29回）等を実施 ・ 採用試験は、医療技術職・一般事務（2回）、看護師・助産師（3回）実施 <p><医師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者を増員するとともに、無期雇用契約職員に対する経験年数加算制度を構築した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 八幡病院に2名配置（4月） ・ 医療センターに12名、八幡に7名の増員決定（令和3年度から配置） ○ 女性医師の就業環境の整備に向けて、情報収集に努めるとともに、来年度の他病院調査に向けた準備を行った。また、両病院の院内保育所において、4月から病児保育を開始した。 ○ 医師紹介会社10社と契約を締結し、大学医局等からの派遣以外の医師の採用を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターに非常勤小児科医1名、八幡病院に常勤麻酔科医1名を採用（令和3年度から） <p><看護師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師が看護業務に専念できる環境の整備に向けて、看護補助者、事務作業サポート職（病棟クランク）の確保に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師の欠員状況等を鑑み、看護師4名を前倒しで採用 ・ 看護補助者の随時採用を実施し51名を採用 ・ 病棟クランクを医療センターに4名、八幡病院に2名を採用 ○ 認定看護師や特定行為研修の派遣計画に基づき派遣者を決定したほか、資格取得支援のあり方について、調査・研究に着手した。 ○ 専門性が発揮できる勤務体制の構築のため、認定看護師の専従配置を増加させた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センター9名（今年度2名配置） ・ 八幡病院2名（今年度2名配置） 	3	3	<p>医療スタッフの確保や事務職のプロパー職員の採用、職場環境の整備、医療スタッフの専門性や医療技術向上のための資格取得支援制度の充実などを進めており、年度計画を順調に実施しており、評価「3」とした。</p>

中期計画	年度計画														
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働き方に柔軟に対応できる体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時短勤務の導入の検討 <医療技術職> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経験者を含めた多様な職種の人材確保 ○ 学会発表等の参加機会確保 ○ 資格取得の奨励・支援制度の構築 ○ 有資格者の確保・育成に向けた制度構築 <事務職員> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロパー化の推進 ○ 医療マネジメントができる事務職員の育成 ○ 院内教育体系の構築に向けた検討 ○ 事務職員の総合力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育成等の基本方針に基づく異動等の実施 														
<関連指標>															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="width: 30%;">項目</th> <th style="width: 15%;">平成29年度 実績</th> <th style="width: 15%;">令和元年度 実績</th> <th style="width: 15%;">令和2年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%;">看護実習受入数</td> <td style="width: 10%;">医療センター</td> <td>350人(5校)</td> <td>282人</td> <td>128人</td> </tr> <tr> <td>八幡病院</td> <td>249人(4校)</td> <td>261人</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table>		項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	看護実習受入数	医療センター	350人(5校)	282人	128人	八幡病院	249人(4校)	261人	45人
項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績											
看護実習受入数	医療センター	350人(5校)	282人	128人											
	八幡病院	249人(4校)	261人	45人											
※ 令和2年度は、新型コロナ感染拡大防止の観点から、看護実習の受入れ制限あり															

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>○ 時短勤務など柔軟な勤務体制の導入に向けた体制を整えるため、産前産後休暇・育児休暇の代替として正規職員を採用した。</p> <p><医療技術職></p> <p>○ 柔軟な職員採用により、経験者を含めた多様な職種の人材を確保した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤師4名、臨床検査技師5名、診療放射線技師1名、臨床工学技士2名、管理栄養士1名、理学療法士1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、医療ソーシャルワーカー3名、看護教員1名、看護実習指導員1名、一般事務8名 <p>○ 学会発表等の参加機会の確保、資格取得支援制度の構築に向けて、他病院の制度の調査結果を踏まえて、職員アンケート実施に向けた準備を行った。</p> <p>○ 契約職員について、令和2年度より人事評価制度を導入するとともに、令和3年4月から無期雇用契約職員に対する経験年数加算制度の導入を決定した。</p> <p><事務職員></p> <p>○ プロパー化計画に基づき、プロパー職員の採用を進めるとともに、市派遣職員を減少させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士含む一般事務職員31名を配置 ・ 7月と12月に採用試験を実施し、11名を採用（令和3年4月採用） <p>○ 医療マネジメントができる事務職員の育成、院内教育体系の構築に向けて、他病院の調査結果を踏まえた院内教育体制を検討するとともに、外部委託による主査級の研修を試行実施した。</p> <p>○ 令和元年度に策定した基本方針（段階的にプロパー職員を採用し、その後ジョブローテーションを行う）に基づき、計画的な職員採用を行った。</p>			

中期計画	年度計画
<p>イ 特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学医局等からの医師確保、病院運営への協力等に向けて、関係大学との連携強化の仕組みづくりに取り組む。 ○ 病院機能の特性を生かした魅力ある臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実、指導体制の整備により、病院の将来を担う医師の育成に努める。 	<p>イ 特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係大学との連携強化の仕組みづくり ○ 臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実 ○ 病院の将来を担う医師の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期研修医枠の拡大に向けた取組み

< 関連指標 >

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
専門医資格取得件数	医療センター	167件	105件	196件
	八幡病院	95件	121件	110件
指導医資格取得件数	医療センター	140件	246件	113件
	八幡病院	62件	42件	51件
初期臨床研修医	医療センター	7人	10人	11人
	八幡病院	4人	4人	5人
専攻医	医療センター	23人	22人	14人
	八幡病院	10人	9人	10人

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ 大学医局との連携強化等</p> <p>特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係大学との連携強化に向けて、理事長、病院長等による訪問活動を積極的に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 九州大学、産業医科大学、福岡大学等を延べ27訪問 ○ 医療センター、八幡病院ともに、臨床研修や専門研修プログラムを充実させたほか、研修中断者を積極的に受け入れるなど、臨床研修医の募集定員拡大に向けて関係機関等への働きかけを行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度臨床研修医募集定員 <ul style="list-style-type: none"> 医療センター 4名（前年度から2名増） 八幡病院 2名（前年度から変更なし） 			

中期計画	年度計画
<p>ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得支援する制度の充実に努めるとともに、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度を充実させる。</p> <p>○ 医療センターにおいては、習熟レベルに応じた研修プログラムの充実と教育担当者の配置、研修体系の一元管理の整備など計画的な人材育成の推進と知識・技術の向上に取り組む。 特に、がん看護に特化した専門看護師の育成と高い臨床推論力と病態判断力を持って急性期医療、地域医療に貢献できる特定行為研修を修了した認定看護師の育成に取り組む。</p> <p>○ 八幡病院においては、今後の高齢化の進展を見据え「慢性心不全看護」「慢性呼吸器疾患看護」の認定看護師資格の取得を目指すとともに、「感染管理」「皮膚・排泄ケア」の認定看護師資格の取得者の増員に取り組む。 また、院内では、看護師の専門性向上のため、経験年数別・役割別・職種別の研修を実施するとともに、他職種についても新たな研修制度の構築に取り組む。</p>	<p>ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得を支援する制度の充実に努めるとともに、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度を充実させる。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 医師を含む医療スタッフの資格取得を支援する制度の構築に向けた調査・研究</p> <p>○ 教育研修制度の構築に向けた調査・研究</p> <p>＜医療センター＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟レベルに応じた研修プログラムの検討 ・ 看護師に対する教育担当者の配置 ・ 研修体系の一元管理の整備 ・ がん看護に特化した専門看護師の育成 ・ 特定行為研修を修了した認定看護師の育成 <p>＜八幡病院＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 慢性心不全看護の認定看護師資格の取得 ・ 感染管理の充実 ・ 皮膚・排泄ケアの認定看護師資格の取得者の増員に向けた取組み ・ 看護師の経験年数別等の研修の実施

＜関連指標＞

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
専門看護師	医療センター	0人	0人	1人
	八幡病院	0人	0人	0人
認定看護師	医療センター	20人	21人	22人
	八幡病院	13人	17人	18人
診療情報管理士数	医療センター	5人	11人	8人
	八幡病院	3人	2人	1人

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ 資格取得支援制度等の充実</p> <p>医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得を支援する制度や、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度の充実に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資格取得支援制度の構築に向けて、他病院の制度の調査結果を踏まえて、職員アンケート実施に向けた準備を行った。 ○ 機構としての教育研修制度の構築に向けて、他病院の調査結果を踏まえた院内教育体制を検討した。 <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本看護協会が提示するクリニカルラダーを参考に、習熟レベルに応じた研修プログラムを検討中(令和3年度からの両病院同時運用開始に向けた最終調整段階) ・ 看護単位ごとに教育担当者を設定するとともに、教育委員会・教育検討委員会を発足し、新人の育成状況や育成方針等を看護部全体で共有 ・ 研修体系の整備に向けて研修計画の策定や研修管理委員会の設置準備を実施 ・ 11月にがん看護専門看護師の資格を取得(1名) ・ 特定行為研修を含む認定看護師の育成に向けて次年度の研修派遣(2名)を決定 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月に慢性心不全看護の認定看護師資格を取得(1名) ・ 感染管理の認定看護師(2名)が、新型コロナの感染管理において、組織横断的な活動を実施 ・ 皮膚・排泄ケアの認定看護師資格の取得者の増員に向けて、後任をチーム活動に加えて育成中 ・ 日本看護協会が提示するクリニカルラダーを参考に、習熟レベルに応じた研修プログラムを検討中(令和3年度からの両病院同時運用開始に向けた最終調整段階) 			

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (2) 医療の質の確保・向上
--------------	---

中期計画	年度計画
------	------

<p>(2) 医療の質の確保、向上</p> <p>ア 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を越えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組む。</p>	<p>(2) 医療の質の確保、向上</p> <p>ア 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を越えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 早期離床・リハビリテーションの実施 ○ 重点診療領域のセンター化に向けた協議
---	--

< 関連指標 >

医療チーム編成状況（平成29年度及び令和2年度実績）

医療センター	八幡病院
緩和ケア	
認知症ケア	認知症ケア
感染防止対策	感染防止対策
栄養サポート	栄養サポート
医療安全管理	医療安全管理
呼吸ケアサポート	呼吸ケアサポート
褥瘡（じょくそう）管理	褥瘡（じょくそう）管理
	排尿ケア

<p>イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組む。</p>	<p>イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パス件数、パス適用率の向上 ○ パスの積極的な活用のための仕組みづくり
--	--

中期目標 (内容)	<p>ア 医療の多様化や複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組むこと。</p> <p>イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組むこと。</p> <p>ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備、更新等を計画的に進めること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 医療の質の確保・向上</p> <p>ア チーム医療の推進 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を越えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 各病院において、医師、看護師、理学療法士等の多職種がチームとして連携し、集中治療室における早期離床・リハビリテーションに取り組んだ。</p> <p>○ 重点診療領域については、患者や家族にスムーズに医療が提供できるよう、センター化に向けて取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、「がんセンター」「糖尿病センター」を開設 ・ 八幡病院では、「小児血液腫瘍・細胞移植」のセンター化に向けて診療体制を充実 <p>イ クリニカルパスの活用等 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 各病院において、積極的に院内広報や経営ヒアでの働きかけを行うことで、パス件数、パス適用率の向上に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターは、新規作成39件、見直し187件 ・ 八幡病院は、新規作成55件 <p>○ パスの積極的な活用に向けて、各病院において、院内広報を実施したほか、パス委員会で改善点や見直し等を協議した。</p>	4	3	<p>チーム医療の推進への取組みや高度な医療機器の計画的な整備、更新を進めている。</p> <p>クリニカルパスの活用については、件数[医療センターR1:229件→R2:226件、八幡病院 R1:218件→R2:273件]、クリニカルパス適用率[医療センターR1:26.6%→R2:32.1%、八幡病院 R1:20.5%→R2:30.6%]が増加している点は、評価できる。他の病院の平均的なクリニカル適用率約40%を上回るよう更なる向上を期待する。</p> <p>年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

中期計画	年度計画
------	------

< 関連指標 >

項 目		平成 2 9 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績
クリニカルパス件数	医療センター	1 8 5 件	2 2 9 件	2 2 6 件
	八幡病院	1 2 7 件	2 1 8 件	2 7 3 件
クリニカルパス適用率	医療センター	2 2 . 4 %	2 6 . 6 %	3 2 . 1 %
	八幡病院	1 8 . 1 %	2 0 . 5 %	3 0 . 6 %

※ クリニカルパス適用率 = $\frac{\text{クリニカルパス適用入院患者数}}{\text{新入院患者数}}$

ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進める。

- 医療センターにおいては、患者への低侵襲な手術を推進するため、手術支援ロボットの導入を検討するとともに、「リニアック」を活用し、患者への負担が少ない放射線治療を推進する。
- 八幡病院においては、ハイブリッド手術室の機能を駆使して、最先端の医療を提供するとともに、小児集中治療室（P I C U）・無菌室を活用し、小児重症患者の診療体制を強化する。

ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進める。

【令和 2 年度の取組み】

< 医療センター >

- リニアックの積極的な活用 **【再掲】**
- 手術支援ロボットの導入の活用 **【再掲】**

- 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設の検討 **【再掲】**

< 八幡病院 >

- ハイブリッド手術室の活用 **【再掲】**

- 小児集中治療室（P I C U）・無菌室等の活用 **【再掲】**

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ 高度医療機器の計画的な整備・更新等</p> <p>医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放射線治療機器「リニアック」のIMRT（強度変調放射線療）の適応を拡大し、2月から頭部定位照射を開始した。【再掲】 ○ 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術件数は、新型コロナウイルス対応に伴い年度当初に手術制限を行ったものの、泌尿器科で「膀胱全摘術」を追加するなど、順調に増加している。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外科54件（昨年度24件） ・ 泌尿器科71件（昨年度9件） ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置については、増設ではなく1.5Tから3.0Tへの置換えを前提に、医療センターにおいて検討を行った。【再掲】 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ハイブリッド手術室を適切に活用し、外傷急性期外科医療の提供に努めた。また、手術症例の増加に向けて、診療案内冊子等で他医療機関への周知に努めた。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度の使用実績44件（昨年度54件） ○ 新病院において整備した小児集中治療室（PICU）・無菌室等を適切に活用して医療を提供した。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・稼働率は、PICU40%、無菌室43% 			

中期計画	年度計画
<p>エ その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケーター（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組む。</p> <p>○ 医療センターにおいては、がんゲノム医療連携拠点病院として、十分にその機能を発揮していくため、国際規格 I S O 1 5 1 8 9 の認定を目指す。</p>	<p>エ その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケーター（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者機関による評価制度の活用 ○ クリニカルインディケーターの活用に向けた検討 ○ 国際規格 I S O 1 5 1 8 9 の認定に向けた取組み <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者機関による評価制度導入に向けた検討

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>エ 第三者機関による評価制度の活用 その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度の積極的な活用に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院機能評価の中間評価に向けて、プロパー職員を中心としたチームで準備に着手した。 ○ クリニカルインディケータの活用に向けて、データ管理や各部門への情報提供を行った。 ○ 国際規格ISO15189の認定は、費用対効果を勘案し、経営改善後の検討課題とした。 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院機能評価の中間評価に向けて、来年度からコンサルの支援を受けた取組みを行うための検討・準備に着手した。 			

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (3) 医療安全の徹底
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八幡病院において、市保健所と連携して地域感染対策を実践するため、地域医療機関での院内感染発生時の対応支援や地域医療従事者への教育・研修等を行う。 ○ 院内ラウンドや医療安全研修会等を実施し、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象の予防に取り組む。 ○ インシデント・アクシデントレポートを適切に分析し、再発防止に努める。 ○ 国内外における感染情報の収集に努める。 	<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じる。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療従事者への教育・研修等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域感染対策研修センターの運用 ○ 院内ラウンドや医療安全研修会等の実施 ○ インシデント・アクシデントレポートの分析 ○ 国内外における感染情報の収集 ○ 機構全体の危機管理体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療訴訟及びクレーム対応の体制強化

< 関連指標 >

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
研修等実施回数	医療センター	60回	56回	34回
	八幡病院	74回	59回	46回
インシデント・アクシデントレポート提出回数	医療センター	1,450回	1,424回	1,468回
	八幡病院	1,069回	1,252回	1,386回

中期目標 (内容)	安全で安心な医療を提供するため、医療事故、院内感染等の医療の安全を脅かす事象に関する情報収集、分析を行い、適切な予防策を講じること。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八幡病院において、市保健福祉局や院長等がメンバーに入っているNPO法人北九州感染制御チーム（KRICT）と連携し、地域の医療関係者や行政職員を対象に、新型コロナを含めた感染防止対策研修を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策研修会（4回）、感染対策セミナー（2回）を実施 ○ 各病院において、院内ラウンドや医療安全研修会を定期的を実施した。また、7月に新型コロナの特命チームを立ち上げ、患者受入体制・院内感染防止・資材調達等についての病院内での体制構築を行うとともに、毎月開催する経営戦略会議において、機構全体での情報共有を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、医療安全管理室等のラウンドを毎月実施、医療安全研修を5回開催 ・ 八幡病院では、医療安全管理室等のラウンドを毎月実施、医療安全研修を1回開催 ○ 各病院において、医療事故等の再発防止に向けて、多職種参加のRCA分析（根本原因分析）を実施し、分析結果を防止対策に反映しマニュアルや手順を変更した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ RCA分析件数 医療センター6件、八幡病院9件 ○ 各病院において、関係機関等からの感染情報を収集し、職員に情報提供を行った。 <p>特に、新型コロナについては、国内外の最新情報を収集し、機構全体での共有に努めた。</p> ○ 4月から機構本部に新設した広報担当ラインが窓口となり、災害や医療事故等のリスク事案の情報を集約することで、初動の迅速化を実現した。また、医療事故公表基準及びホームページ公表手順を見直した。また、医療センターの医療訴訟・クレーム対応の体制強化に向けて、令和3年4月からの患者相談担当官（係長級1名）の配置を決定した。 	4	4	<p>感染リスクの高い新型コロナウイルス感染症に対して、特命チームの立ち上げなどにより、患者受入体制や院内感染防止などについて適切な予防策を講じた。</p> <p>また、医療事故等に対してマニュアル・手順の見直しや情報の集約化などを進めた。</p> <p>医療安全への対応が進んだことから評価「4」とした。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (4) 医療に関する調査・研究
--------------	--

中期計画	年度計画
(4) 医療に関する調査・研究 高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組む。	(4) 医療に関する調査・研究 高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組む。 【令和2年度の取組み】 ○ 治験・研究医療の推進 ○ 治験等の推進に向けた体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人員、施設、設備等の充実 ・ 両病院の治験審査委員会の一本化

< 関連指標 >

項目		平成29年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績
治験等実施件数	医療センター	96件	109件	181件
	八幡病院	35件	31件	21件

※ 治験等実施件数には臨床研究実施件数及び公的調査研究件数を含む。

中期目標 (内容)	高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査、研究に積極的に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(4) 医療に関する調査・研究</p> <p>高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、臨床研究等の受託を拡充するための取り組みを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、厚生労働省の科学研究費助成事業の対象施設申請を行った。 ・ 八幡病院では、企業からの奨学寄附金の受入体制の準備を進めた。 ○ 治験・臨床研究の推進に向けて、治験・臨床研究に関する施設や設備を充実させたほか、専任職員の確保など体制強化に取り組んだ。また、新型コロナに関する企業治験、特定臨床研究、臨床研究に意欲的に参加した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構全体で治験・臨床研究を推進するため、医療センターに「臨床研究推進室」を設置 ・ 専任職員として、治験コーディネーターの資格を有する担当係長を採用 ・ 実施中の治験・臨床研究の管理体制の強化 ・ 新型コロナ関連治験等は12件実施、令和3年度開始予定の4件の実施準備 ・ 医療センターと八幡病院の治験審査委員会（IRB）を一本化 ・ 令和3年4月の臨床研究推進センター立ち上げに向けた準備 	4	4	<p>医療に関する調査・研究に積極的に取り組むための体制が整い、治験等件数[医療センターR1:109件→R2:181件、八幡病院 R1:31件→R2:21件]が、全体として大幅に増加していることから、評価「4」とした。</p>

中期目標 (項目)	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>4 市民・地域医療機関からの信頼の確保</p> <p>(1) 患者サービスの向上</p>
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>① 患者目線での病院運営の徹底</p> <p>ア 患者や家族のニーズを的確に把握し、市民から信頼される病院を目指す。</p> <p>また、患者中心の医療提供を行うため、接遇研修を抜本的に見直すなど、患者目線に立ったサービスの提供に努める。</p> <p>特に、看護については病室やベッドサイドで看護記録やカンファレンス等を行うセル看護方式やパートナーシップ・ナーシングシステム(PNS)の導入等、可能な限り患者に寄り添う看護の提供に取り組む。</p> <p>イ 職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努める。</p> <p>患者満足度調査の手法も含めて抜本的に見直すとともに、患者ニーズを的確に把握し、課題等に対して適切な改善策を講じる。</p> <p>また、現在、特に不満の多い「受付・診察の待ち時間」の短縮に向けて、各病院において以下の取組を進める。</p> <p>医療センターにおいては、診療予約時間に基づいて中央処置室での採血や採尿の受付時間を設定するなどの混雑緩和の取組を進める。</p> <p>八幡病院においては、自動精算機・診察待ち順番表示設備の導入、問診・脈拍測定等の診察前実施に取り組む。</p>	<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>ア 患者目線での病院運営の徹底</p> <p>市民から信頼される病院を目指して、患者や家族のニーズを的確に把握するとともに、職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><患者ニーズの把握></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者満足度調査手法の抜本的な見直し <p><患者サービスの改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 接遇研修の抜本的な見直し ○ 患者に寄り添う新たな看護方式の検討・試行 <p>○ 受付・診察の待ち時間の短縮に向けた取組み</p> <p><新たな患者サービスの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティアの導入に向けた検討 ○ 外国人患者の受入れに向けた検討

中期目標 (内容)	① 患者目線での病院運営の徹底 ア 患者や家族のニーズを的確に把握し、市民から信頼される病院を目指すこと。 イ 職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努めること。
	② 快適な院内環境の整備 ア 施設や設備面での快適性を向上させること。 イ 患者や家族の利便性を向上させること。
	③ 患者や市民への情報提供 ア 診療内容、治療実績等の情報発信に積極的に取り組むこと。 イ 市民の健康増進に向けた取組みを進めること。

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>ア 患者目線での病院運営の徹底 市民から信頼される病院を目指して、患者や家族のニーズを的確に把握するとともに、職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><患者ニーズの把握></p> <p>○ 患者満足度調査については、これまで両病院それぞれで調査を行っていたが、効率化と調査結果の有効活用の観点から、外部委託による統一調査に変更した。</p> <p><患者サービスの改善></p> <p>○ 外部講師を活用した全職員対象の接遇研修を実施した。</p> <p>○ 各病院の看護部において、セル看護方式やPNSの導入に向けて、マニュアル作成やモデル病棟での試行を実施し、評価・改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、セル看護方式とPNSをモデル病棟で試行実施 ・ 八幡病院では、PNSをモデル病棟で試行実施 <p>○ 各病院において、院内のレイアウト変更や設備等の整備により、受付・診察の待ち時間の短縮に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、改善プロジェクトチームを立ち上げ、開院時間・再来受付時間の変更、会計窓口等のレイアウト変更、会計待ち時間表示案内システム(Airwait)の導入により、外来待ち時間や病院滞在時間が短縮 ・ 八幡病院では、自動精算機・診察待ち順番表示設備の表示人数の随時調整、小児科の病院待合番号表示アプリ(Smapa)により、待ち時間を感じにくい環境を整備 <p><新たな患者サービスの検討></p> <p>○ ボランティアの導入、外国人の受入れについては、新型コロナ感染拡大防止の観点から、今後の検討課題とした。</p>	3	3	<p>患者ニーズの把握方法の変更や患者サービス改善のための接遇研修の充実・新たな看護方式の施行を行っている。</p> <p>また、院内環境の整備、診療内容や治療実績等の情報発信などに取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

中期計画	年度計画
<p>② 快適な院内環境の整備</p> <p>ア 院内環境の改善により施設・設備面での快適性の向上に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療センターにおいては、消化器疾患全般について、内科・外科が連携し、よりシームレスで総合的な診療を提供する消化器センターの開設や、婦人科、乳腺内分泌外科を中心とした女性専用病棟の開設等病棟機能の集約化に取り組む。 ○ 八幡病院においては、患者や家族がくつろげる中庭やファミリールーム等新たに整備した施設・設備を適切に活用し、より一層の快適性と利便性の向上に取り組む。 <p>イ 患者や家族の利便性の向上に向けて、自動精算機や診察待ち順番表示設備の導入待ち時間短縮に向けた取り組みを推進する。</p> <p>また、入退院センター等について、メディカルソーシャルワーカー、看護師、事務職員等の人員配置を強化するなど、患者やその家族の支援機能の強化に取り組む。</p>	<p>イ 快適な院内環境の整備</p> <p>院内環境の改善により、院内体制の充実・強化や施設・設備の整備等により、患者や家族の快適性や利便性の向上に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 消化器センターの円滑な運用 ○ 女性専用病棟の円滑な運用 ○ 入退院センターの体制強化 <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中庭やファミリールームの活用 ○ 自動精算機や診察待ち順番表示設備の円滑な運用

< 関連指標 >

項目	医療センター			八幡病院			
	平成29年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	平成29年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	
接遇研修回数	23回	17回	4回	10回	10回	0回	
研修参加延人数	274人	115人	116人	260人	122人	0人	
患者満足度調査結果	入院	3.9点	4.2点	4.1点	4.2点	4.4点	4.3点
	外来	3.6点	3.5点	3.7点	4.0点	4.1点	4.2点

※ 患者満足度調査は、病院で入院・外来ごとにアンケートを実施。各項目について5段階で評価

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ 快適な院内環境の整備 院内環境の改善に向けて、院内体制の充実・強化や施設・設備の整備等に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】 <院内体制の充実・強化> ○ 消化器センターについては、新型コロナ応援対応のため4月から5月中旬まで一時休床としたものの、それ以降は円滑に運用している。 ○ 女性専用病棟については、乳腺外科、産婦人科、泌尿器科において、円滑に運用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稼働率84.3%（昨年度88.2%） <p>○ 患者サービスの向上に向けて、各病院において、多職種が介入して患者支援を行う「入退院センター」の体制強化に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、対象診療科を拡大（8月泌尿器科、11月呼吸器外科、2月耳鼻咽喉科） ・ 八幡病院では、体制強化のために係長1名、MSWを1名増員 <p><施設・設備の整備等> ○ 中庭やファミリールームの活用については、新型コロナ感染拡大防止の観点から閉鎖しているが、小児科での運用再開に向けた検討を進めた。 ○ 患者サービスの向上に向けて、外来診察待ち時間を短縮するため、医療センターにおいて、順番表示設備を導入（運用開始は令和3年度）した。</p> <p>※ すでに、自動精算機は両病院、順番表示設備は八幡病院に導入済み</p>			

中期計画	年度計画
<p>③ 患者や市民への情報提供</p> <p>ア 診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組む。</p> <p>○ ホームページや広報誌を通じて、診療内容や治療実績等を積極的に情報発信するとともに、SNS等のソーシャルメディアを積極的に活用する。</p> <p>イ 市民の健康増進に向けた取組みを進める。</p>	<p>ウ 患者や市民への情報提供</p> <p>診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組むとともに、市民の健康増進に向けた取組みを進める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療内容や治療実績等の情報発信 ○ ホームページの見直し ○ 各種PRツールの整備 ○ ソーシャルメディアの活用に向けた取組み ○ 市民向け健康講座等の充実 ○ 広報対応の体制強化

< 関連指標 >

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績
広報誌等発行回数	医療センター	8回	5回	4回
	八幡病院	8回	8回	15回
市民向け健康講座等 開催件数	医療センター	13回	20回	0回
	八幡病院	30回	35回	0回

※ 市民向け健康講座等開催件数は、市民向けに実施した公開講座や出前講演等。

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ 患者や市民への情報提供</p> <p>診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組むとともに、市民の健康増進に向けた取組みを進めた。</p> <p>また、機構全体の広報機能強化に向けて、4月から機構本部に広報担当ラインを新設した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者や市民への情報提供の充実に向けて、各病院において、パンフレットやホームページで診療内容や治療実績等の情報発信に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、広報誌「輪」を年4回発行。ホームページで最新情報を随時更新 ・ 八幡病院では、広報誌「やはた病院ニュース」を年3回、「さらくら」を年2回発行。ホームページで最新情報を随時更新 ○ 新型コロナウイルスに対する取組み、寄付のお願い、採用案内などの内容を充実させるとともに、デザインや構成も含めた更なる見直しに向けた準備を進めた。 ○ 機構の認知や関心を高めるとともに、地域連携強化に向けた各種PRツールの整備に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構本部では、機構のシンボルマークを使用したピンバッジ・機構旗を製作 ・ 医療センターでは、広報誌「輪」の内容を充実させるとともに、AirGISOnlineを用いた診療科PR・連携病院紹介ページを製作 ・ 八幡病院では、広報誌「八幡病院ニュース」「さらくら」の内容を充実させるとともに、新たに「連携通信」、診療科紹介チラシを製作 ○ 診療内容等を広く発信するため、各種のソーシャルメディアを活用して情報発信に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、フェイスブック、インスタグラムを活用して病院の取組みや診療科の紹介等の情報を発信、ユーチューブを活用した市民公開講座等の発信の検討開始 ・ 八幡病院では、フェイスブックを活用してDMAT・小児医療等の情報を発信 ○ 新型コロナ感染防止の観点から、企業・団体への出前講演や市民公開講座を見送ったが、今後のWeb開催に向けた検討を開始した。 ○ 4月から機構本部に広報担当ラインを新設（担当係長1名、担当者1名を配置）した。また、効果的・効率的な情報発信を行うため、機構本部・両病院・看護学校で広報連絡会議を立ち上げ、週次の情報共有を実施した。 			

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 市民・地域医療機関からの信頼の確保 (2) 地域の医療機関等との連携
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(2) 地域医療機関等との連携</p> <p>ア 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療機関へのヒアリングやアンケートの実施により、信頼の確保に努めるとともに、医療連携室の機能強化により、急性期医療を要する患者の地域医療機関からの紹介と慢性・軽症患者の地域医療機関への逆紹介を推進する。 ○ 福岡県地域医療構想調整会議での議論や地域の医療機関のニーズを踏まえ、適切な機能分化・役割分担の構築に努める。 	<p>(2) 地域医療機関等との連携</p> <p>ア 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を目指す。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療機関へのヒアリングやアンケートの実施 ○ 医療連携室の機能強化 ○ 紹介率・逆紹介率の向上 ○ 近隣病院との機能分化・役割分担に向けた検討

< 関連指標及び目標 >

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和5年度 目標
紹介率	医療センター	86.6%	85.2%	85.1%	90.0%
	八幡病院	67.1%	63.6%	77.0%	70.0%
逆紹介率	医療センター	68.0%	81.3%	96.2%	80.0%
	八幡病院	96.7%	82.3%	110.0%	100.0%

※ 紹介率 = 紹介患者数 ÷ (初診患者数 - 救急車搬送初診患者数 - 時間外初診患者数) × 100

※ 逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ (初診患者数 - 救急車初診搬送患者数 - 時間外初診患者数) × 100

中期目標 (内容)	<p>ア 地域の医療機関のニーズと役割を把握し、地域の医療機関に信頼される病院を目指すこと。</p> <p>イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たすこと。</p> <p>ウ 医療センターと八幡病院の機能分化や連携を深めること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 地域の医療機関等との連携</p> <p>ア 地域医療機関のニーズと役割の把握等 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を目指して取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 医療機関への訪問については、新型コロナの感染拡大時には制限せざるを得なかったが、感染が落ち着いた期間に、可能な限りヒアリングやアンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、延べ859件の医療機関を訪問したほか、要望書を配付・回収して課題等を把握 ・ 八幡病院では、延べ519件の地域医療機関を訪問したほか、アンケートを配布 <p>○ 地域の医療機関との連携強化に向けて、経営企画課と医療連携室を主体とした会議を立ち上げるとともに、紹介実績データの整理、PRツールの拡充、ヒアリングやアンケートによるニーズの把握、返書管理の徹底などの取組みを推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、11月に戦略営業チーム会議を立ち上げ ・ 八幡病院では、4月にスタッフを2名（事務係長、医療ソーシャルワーカー）増員するとともに、3月に営業戦略会議を立ち上げ <p>○ 医療機関への訪問については、新型コロナの感染拡大時には制限せざるを得なかったが、戦略的な営業を行うことで、紹介率の向上に努めた。また、新型コロナ対応に伴う退院促進や、八幡病院における小児救急患者に対する診療情報提供書作成の徹底により、逆紹介率も向上した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、紹介率が横ばい、逆紹介率は増加 ・ 八幡病院では、紹介率、逆紹介率ともに増加 <p>○ 福岡県地域医療構想の実現に向けて、近隣病院との機能分化・役割分担を進めていくため、地域医療機関の意見・要望の集約に努めた。</p>	4	4	<p>医療連携については、医療連携室の機能強化や返書管理の徹底等により、紹介率[医療センター R1:85.2%→R2:85.1%、八幡病院 R1:63.6%→R2:77.0%]、逆紹介率[医療センター R1:81.3%→R2:96.2%、八幡病院 R1:82.3%→R2:110.0%]と推移しており、地域の医療機関等との連携促進に向けた取り組みが進展している。</p> <p>医療センターと八幡病院の連携も、理事長のリーダーシップの下、進んでいることから、評価「4」とした。</p>

中期計画	年度計画
<p>イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用を通じて地域医療を担うかかりつけ医等に対する支援を行う。 ○ 大腿骨近位部骨折や脳卒中については、地域医療機関との連携の下に策定した地域連携クリティカルパス(北九州標準モデル)の普及に努める。 <p>また、がんについては、福岡県地域連携クリティカルパスの普及に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の医療機関を対象に地域連携会を中心とした情報交換体制の充実を図る。 	<p>イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たす。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機器の共同利用等の実績の向上 ○ かかりつけ医等に対する支援 ○ 「連携ネット北九州」の活用促進【再掲】 ○ 地域連携クリティカルパスの普及促進 ○ 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及【再掲】 ○ 地域連携会を中心とした情報交換体制の充実

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ 地域医療支援病院としての役割</p> <p>地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たすよう努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機器の共同利用等の実績向上に向けて、地域医療機関への訪問やホームページ、広報誌等を通じた広報活動等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センター・八幡病院ともに、高額医療機器の共同利用推進についてのフライヤー・リーフレットを作成・配付 ○ かかりつけ医に対する支援の充実に向けて、各病院において、紹介患者の優先的な対応や医療従事者向けの研修会の開催等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、連携ネット北九州による情報提供を推進したほか、Webによる医療従事者研修会を開催（7回） ・ 八幡病院では、在宅療養後方支援病院の推進のため、かかりつけ医等の登録を進めた。 ○ 「連携ネット北九州」の活用促進に向けて、医療機関の訪問やチラシ郵送等によるPR活動に取り組んだ。【再掲】※医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月末時点の活用医療機関数は156箇所（昨年度150箇所） ○ 地域連携クリティカルパスの普及に向けて、院内への周知、関係医療機関とのカンファレンスの実施等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、脳卒中・大腿骨骨折に加え、前立腺がんパス連絡協議会への参加、院内への周知等を実施 ・ 八幡病院では、脳卒中・大腿骨骨折パス連絡協議会への参加、関係医療機関への訪問・カンファレンス等を実施 ○ 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に向けて、県内関係者とWEBミーティングによる情報共有に取り組んだ。【再掲】※医療センター ○ 新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域医療機関を対象とした医療連携会の開催を見送った。 			

中期計画	年度計画
------	------

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和5年度 目標
共同利用件数 (高額医療機器)	医療センター	1,433件	1,274件	1,193件	1,500件
	八幡病院	798件	710件	665件	900件
共同利用件数 (開放病床)	医療センター	51件	35件	92件	60件
	八幡病院	74件	71件	27件	100件
地域医療従事者 研修実施回数	医療センター	12回	9回	7回	12回
	八幡病院	12回	17回	10回	20回
登録医療機関件数	医療センター	615件	588件	587件	620件
	八幡病院	221件	220件	237件	230件
地域医療連携会議 参加人数	医療センター	640人	545人	0人	—
	八幡病院	377人	393人	0人	—

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等

中期計画	年度計画
<p>ウ 市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療提供機能の相互支援の充実に向けて、各病院の専門分野に関する知識の習得のため、医師を含めた多職種における人事交流を推進する。 ○ 特に、市立病院の専門分野においては、相互に患者の紹介等を優先的に行う。 ○ 高度医療機器の共同利用や、診療・検査等における医療提供機能の相互支援に取り組む。 	<p>ウ 市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進する。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師を含めた多職種における人事交流の推進 ○ 相互の専門分野における優先的な患者の紹介 ○ 高度医療機器の共同利用に向けた取組み ○ 診療・検査等における医療提供機能の相互支援 ○ TV会議システムの活用

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ 医療センターと八幡病院の連携</p> <p>市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、理事長のリーダーシップの下、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療提供機能の相互支援の充実に向けて、多職種における人事交流（令和2年4月異動）に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師は、医療センターを退職する副院長（循環器内科）を八幡病院副院長として再雇用 ・ 看護師は、医療センターから八幡病院へ副看護師長1名、八幡病院から医療センターに看護師長1名・看護師1名、医療センターから看護専門学校へ看護師長1名・主査1名、八幡病院から看護専門学校へ主査1名 ・ 診療放射線技師は、八幡病院から医療センターへ係員1名 ・ 理学療法士は、医療センターから八幡病院へ副技師長1名、八幡病院から医療センターへ係員1名 ○ 各病院の専門分野において、相互に優先的な患者紹介に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターから八幡病院への患者紹介は33件（昨年度26件） ・ 八幡病院から医療センターへの患者紹介は50件（昨年度33件） ○ 各病院が保有する高度医療機器を有効活用するため、新規購入の予算要求時に、共同利用の可否について検討することとした。 ○ 診療・検査等における医療提供機能の相互支援を推進するため、医師の診療・当直応援の実施に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 八幡病院の小児科から医療センターの新生児科に医師を派遣（1名、週5日、診療応援） ・ 八幡病院の婦人科から医療センターの産婦人科に医師を派遣（1名、月1日、当直応援） ・ 医療センターの循環器内科から八幡病院の循環器内科に医師を派遣（1名、週1日、診療応援） ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、移動の抑制や三密回避に効果的なTV会議システムを最大限に活用した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営本部会議、経営戦略会議、事務幹部会議等機構本部・両病院の三者会議は、原則TV会議を使用 ・ その他、通常業務における機構本部・両病院間の協議においても積極的に活用 			

中期計画	年度計画
	<ul style="list-style-type: none">○ 電子カルテの共通化に向けた検討

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>○ 令和10年度に電子カルテを共通化させることを目標に、外部の専門家の協力の下、両病院の直近の更新に向けた検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度に更新時期を迎える八幡病院では、現在のベンダーで継続することとなったが、令和10年度の共通化によるベンダー変更も考慮し、現行以上のシステム改修は行わない方針で決定 ・ 令和5年度に更新時期を迎える医療センターでは、令和10年度の共通化を見据え、令和5年度からのベンダーの変更も踏まえた検討を開始 			

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 収入増加・確保対策 (1) 病床利用率の向上
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>1 収入増加・確保対策 (1) 病床利用率の向上</p> <p>政策医療等に関する病床を除く一般病床については、法人全体の営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした病床利用率の数値目標を設定し、その目標達成に向けて各病院全体で取り組む。</p> <p>また、病床利用率の数値目標の達成に向けて、診療科毎に数値目標を設定して全てのスタッフで共有するなど目標管理を徹底するとともに、地域医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入によって患者の確保に努めるほか、ベッドコントロールの効率化による病床利用率の向上に取り組む。</p> <p>○ 医療センターにおいては、クリニカルパスの整備、早期リハビリテーションの実施等によって在院日数の短縮に取り組むとともに、副院長をトップとして病棟看護師長がベッドコントロールを行う病床マネジメントのための管理体制を構築する。</p> <p>また、外来診察の完全予約制の導入を検討する等、地域医療機関との連携強化により、急性期医療を必要とする患者の受入と急性期を脱した患者の地域医療機関へのシフトを促進することにより、患者の確保に努める。</p> <p>○ 八幡病院においては、DPCデータ等に基づくベッドコントロールの効率化や多職種による退院支援体制の強化に取り組む。</p> <p>また、小児救急・小児総合医療センターにおける専門医療の充実や、地域のニーズを踏まえた消化器・肝臓病センターや心不全センターの運営等、市民に求められる医療の提供を通じて、患者の確保に努める。</p>	<p>1 収入増加・確保対策 (1) 病床利用率の向上</p> <p>政策医療等に関する病床を除く一般病床については、法人全体の営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした病床利用率の数値目標を設定し、その目標達成に向けて各病院全体で取り組む。</p> <p>また、病床利用率の数値目標の達成に向けて、診療科毎に数値目標を設定して全てのスタッフで共有するなど目標管理を徹底するとともに、地域医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入によって患者の確保に努めるほか、ベッドコントロールの効率化による病床利用率の向上に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】 <目標管理></p> <p>○ 診療科毎の数値目標の設定 (目標管理の徹底)</p> <p>○ 稼働実績を踏まえた病床配置の見直し</p>

中期目標 (内容)	政策医療等に関する病床を除く一般病床については、法人全体の営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした病床利用率の数値目標を設定し、その目標達成に向けて各病院全体で取り組むこと。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>1 収入増加・確保対策</p> <p>(1) 病床利用率の向上</p> <p>新型コロナ患者の入院受入れに伴い、一般病床の一部休止や手術制限を行ったほか、市民や患者の受診控え等もあって、患者数は大幅に減少した。</p> <p>また、新型コロナ患者が増加した期間は、応援看護師を確保するために他病棟の病床を一時休止するなど、柔軟な病床再編を実施した。</p> <p>このような状況の中、7月に立ち上げた経営戦略会議において、一般病床の稼働率目標を設定するとともに、営業活動や救急受入の強化、ベッドコントロールの運用見直しを行なうことで、一般病床の稼働率向上に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>＜目標管理＞</p> <p>○ 機構全体または各病院において、目標数値の設定、達成状況の確認や原因分析など、目標管理の徹底に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構全体の毎月の収支目標を設定し、毎月の経営本部会議において月次決算を検証、原因分析等を実施 ・ 経営戦略会議において一般病床の稼働率目標を設定し、各病院において稼働率向上に向けた施策を実施 ・ 新型コロナの影響を踏まえ、診療科ごとの目標設定は見送ったが、経営ヒアリングによって課題と改善策の情報共有を実施 <p>○ 新型コロナに適切に対応するため、柔軟な病床再編を実施した。</p> <p>＜医療センター＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナ患者受入れのため、西2病棟、4北病棟、HCUをコロナ病床として確保、一部休止 ・ そのほか、5南病棟、6南病棟を応援看護師確保のために一時休止 ・ 4月から確保18床、休止37～104床 ・ 6月から確保20床、休止25床 ・ 1月から確保22床、休止33床 ・ 2月から確保22床、休止55床 <p>＜八幡病院＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナ患者受入れのため、6A病棟、ICUをコロナ病床として確保、一部休止 ・ そのほか、5B病棟を応援看護師確保のために一時休止 ・ 4月から確保18床、休止39床 ・ 9月から確保18床、休止45床 ・ 10月から確保20床、休止43床 ・ 3月から確保20床、休止52床 	3	3	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による市民の受診控えや診療制限等により入院及び外来患者数は大幅に減少し、病床利用率は低下したが、新型コロナウイルス感染症対応や患者減少に合わせて、柔軟な病床運営を行うとともに、ベッドコントロールの運用見直しなど、コロナ禍での稼働率向上に向けた取組みを行ったことは、評価できるため、評価「3」とした。</p>

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p><マネジメント体制></p> <p>○ 病床利用率の向上に向けて、各病院において、ベッドコントロールの効率化や入退院支援体制の充実に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、ベッドコントロールシステムの活用、ベッドサイドモニター導入に伴う術後病棟直帰体制の確立、「患者支援センター」機能の院内周知を実施 ・ 八幡病院では、看護部を中心にベッドコントロールの効率化を徹底 <p><患者確保></p> <p>○ 病床稼働率向上及び患者確保のため、救急患者の積極的な受入れに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、4月に市消防局OBを救急担当職員とし配置するとともに、令和3年4月の救急部設置に向けた準備を実施 ・ 八幡病院では、不応需事例の検証により、応需率の向上を促進 <p>○ 医療センターにおいて、地域の診療所との機能分化を進めるため、外来診療の完全予約制の導入に向けて、6月にフロント業務・患者フロー改善プロジェクトを発足させ、本格的に検討を開始した。</p>			

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 収入増加・確保対策 (2) 適切な診療報酬の確保
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(2) 適切な診療報酬の確保</p> <p>ア 複雑化する診療報酬制度に対応し、診療行為に対する診療報酬を適切に確保するため、専門的知識・経験を有する事務職員をプロパー職員として計画的に採用するとともに、診療情報管理士の資格取得等による事務職員の育成に努めるなど、医療事務の処理能力の強化に取り組む。</p> <p>イ 全職員が診療報酬制度への理解を深めるため、経営状況や診療報酬制度等に関する職員説明会等の実施に取り組むとともに、医療環境の変化や患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、診療機能の強化につながる施設基準の取得等、効果的な経営戦略を企画・立案するため、法人全体の事務処理体制の強化に取り組む。</p> <p>また、診療報酬の請求漏れや減点の防止に努めるとともに、未収金の発生防止や効果的な回収策を講じるなど、適切な診療報酬の確保に向けて不断に取り組む。</p> <p>特に、医療費徴収にあたっては、納付資力があるにもかかわらず、納付しない滞納者に対して法的措置などを厳正に実施する。</p>	<p>(2) 適切な診療報酬の確保</p> <p>複雑化する診療報酬制度に対応し、診療報酬を適切に確保するため、法人全体の医療事務の処理能力の強化に取り組む。</p> <p>また、全職員が診療報酬制度への理解を深めるための取組みを進めるとともに、未収金の効果的な回収策の検討など、適切な診療報酬の確保に向けて不断に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><事務処理能力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療事務プロパー職員の計画的な採用 <p>○ 資格取得等、事務職員の育成のあり方についての検討</p> <p><診療報酬の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 査定減比率の改善に向けた取組み <p>○ 施設基準等の積極的な取得</p>

中期目標 (内容)	ア 複雑化する診療報酬制度に対応するため、医療事務の処理能力を強化すること。 イ 全職員が診療報酬制度への理解を深めるとともに、診療機能の強化につながる施設基準の取得を積極的に検討するなど、適切な診療報酬の確保に向けて不断に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 適切な診療報酬の確保</p> <p>複雑化する診療報酬制度に対応し、診療行為に対する診療報酬を適切に確保するため、専門的知識・経験を有する事務職員をプロパー職員として計画的に採用するとともに、診療情報管理士の資格取得等による事務職員の育成に努めるなど、医療事務の処理能力の強化に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p><事務処理能力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務処理体制を強化するため、事務系職員について、診療報酬制度や医療事務等の専門的知識や経験を有する人材を中心に、プロパー職員の採用に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、病院医療事務経験者の経営企画課長1名（八幡）、地域医療連携推進担当係長1名（八幡）を採用 ・ 来年度、病院医療事務経験者の医事係長1名（八幡）のほか、病院医療事務経験者5名、診療情報管理士1名、ほか2名の採用を決定 ○ 事務職員の能力向上に向けて、各病院において、所属職員をWeb研修に積極的に参加させた。 <p>また、医療マネジメントができる事務職員の育成、院内教育体系の構築に向けて、他病院の調査結果を踏まえた院内教育体制を検討するとともに、外部委託による主査級の研修を試行実施した。</p> <p><診療報酬の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 査定減比率の改善に向けて、各病院において、診療報酬請求に精通した職員の確保・育成に努めるとともに、査定結果の分析や対策に関する勉強会の開催等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、医師・看護部・コメディカルと共同し、査定内容の分析・対策を検討 ・ 八幡病院では、査定内容の分析・対策について、幹部会・運営協議会で報告するとともに、医師を中心に情報共有を実施 ○ 診療報酬の適切な確保に向けて、各病院において、施設基準の積極的な取得に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、総合入院体制加算3、医師事務作業補助体制加算1（20対1）、認知症ケア加算など、計50件を取得 ・ 八幡病院では、病棟薬剤業務実施加算1、医師事務作業補助体制加算2（25対1）、地域医療体制確保加算など、計35件を取得 	4	3	<p>適切な診療報酬の確保に向け、専門的知識や経験を有する人材の採用など、年度計画に基づいた取組みを順調に実施している。</p> <p>その成果として、施設基準の取得件数〔医療センター50件、八幡病院35件〕や市派遣職員比率の減少〔医療センターR1：65.5%→R2：45.5%（目標39.1%）、八幡病院R1：87.5%→R2：66.6%（目標52.6%）〕、査定減比率の向上〔医療センターR1：0.75%→R2：0.73%（目標0.49%）、八幡病院R1：0.46%→R2：0.33%（目標0.43%）〕、医療費徴収率の向上〔医療センターR1：99.7%→R2：99.6%（目標99.8%）、八幡病院R1：99.7%→R2：99.7%（目標99.5%）〕と順調に実施している。</p> <p>診療単価の向上については、評価できるが、診療単価は、医療の質だけではなく、人員配置、患者の疾患の割合やベッドコントロール、高額医薬品や高度な医療機器の導入状況などの影響を受けることや、診療単価の向上が年度計画に記されていないこと等から、診療単価を指標として扱うことはせず、「適切な診療報酬の確保」の項目全体として、順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

中期計画	年度計画
	<p>○ 診療報酬制度等に関する職員説明会等の実施</p> <p><未収金対策></p> <p>○ 効果的な未収金回収策の検討</p> <p>○ 医療費徴収率の向上に向けた取組み</p>

<関連指標及び目標>

項目	平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和5年度 目標
医療センター				
市派遣職員比率	100%	65.5%	45.5%	39.1%
査定減比率	0.69%	0.75%	0.73%	0.49%
医療費徴収率	99.7%	99.7%	99.6%	99.8%
八幡病院				
市派遣職員比率	100%	87.5%	66.6%	52.6%
査定減比率	0.51%	0.46%	0.33%	0.43%
医療費徴収率	99.4%	99.7%	99.7%	99.5%

※ 市派遣職員比率＝市派遣職員数（事務職員）÷正規事務職員数

※ 査定減比率＝査定減金額÷診療報酬請求金額

※ 医療費徴収率＝収入予定額（現年分＋滞納繰越分）÷診療報酬請求額（現年分＋滞納繰越分）

<参考>

項目		令和元年度 実績	令和2年度 実績
入院単価	医療センター	62,342円	68,630円
	八幡病院	54,797円	61,550円
外来単価	医療センター	20,998円	23,408円
	八幡病院	10,479円	10,333円

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>○ 医療スタッフの診療報酬制度への理解を深めるため、各病院において、診療報酬制度等に関する職員向けの勉強会や説明会を実施した。</p> <p>また、各病院において、医学管理料算定率向上やDPCマネジメントなど経営改善に関する資料を定期的に作成し、サイボウズで機構全体に周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、新人職員向け勉強会、診療報酬勉強会等を4回実施、MMニュース14回発行 ・ 八幡病院では、診療報酬改定説明会を1回実施、V字だより6回発行 <p><未収金対策></p> <p>○ 未収金の発生防止に向けた対策を徹底するとともに、弁護士委託などによる新たな未収金回収策について検討に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無保険者に対する保険加入手続きや生活保護受給等のサポートを実施 ・ 高額医療制度等の自己負担軽減制度対象者に対する限度額認定証取得のサポートを実施 ・ 夜間救急患者の保険加入情報等の確認を徹底 <p>○ 各病院において、専任職員を配置し、未払者を早期に把握するとともに、滞納整理事案全件に対し、滞納者への催告等（文書や電話による催告を数回実施し、連絡が取れないもの等は臨戸訪問）を適切に実施した。また、未収金回収の法的措置も適切に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、未収金担当官1名と未収事務補助1名を増員するなど、体制を強化 ・ 八幡病院では、機構本部と連携し、長期間にわたる入院の高額滞納者に対して法的措置を実施 			

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 経費節減・抑制対策 (1) コスト節減の推進
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(1) コスト節減の推進</p> <p>ア コスト節減に向けて、地方独立行政法人制度の特長を活かした柔軟で多様な契約制度の導入に取り組む。</p> <p>契約制度については、医療機器等の調達保守一体契約の導入、器械設備や業務委託の複数年契約の推進、医薬品や診療材料調達に係る価格交渉の徹底等に取り組む。</p> <p>また、コスト節減に向けて、後発医薬品の採用品目数の増加に取り組む。</p> <p>イ 法人全体で業務の抜本的な見直しに取り組む。</p> <p>コスト削減に向けて、専任職員の配置による調達部門における体制強化や医療機器管理への専門技術者の配置等の組織体制の強化に取り組むとともに、清掃や警備等の業務委託や物品調達等については、医療センターと八幡病院で契約の一本化を推進する。</p>	<p>(1) コスト節減の推進</p> <p>コスト節減に向けて、地方独立行政法人制度の特長を活かした柔軟で多様な契約制度の導入に取り組むとともに、法人全体で業務の抜本的な見直しに取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 組織体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調達部門への専任職員の配置 ○ 柔軟で多様な契約制度の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器等の保守契約の見直し ・ 業務委託等の複数年契約の推進 ○ 医薬品や診療材料調達価格の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品や診療材料調達に係る価格交渉の徹底 ・ 診療材料の全国規模の共同購買への参画の検討 ○ 後発医薬品採用率の向上 ○ 医療センターと八幡病院の契約一本化の推進 ○ その他コスト削減策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ コスト削減に向けたアイデア募集・情報共有

中期目標 (内容)	ア 地方独立行政法人制度の特長を活かした契約制度の導入に取り組むこと。 イ 法人全体で業務の抜本的な見直しに取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) コスト節減の推進</p> <p>コスト節減に向けて、地方独立行政法人制度の特長を活かして、組織体制の強化や柔軟で多様な契約制度の導入等に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調達部門の専任職員が中心となって医薬品や診療材料の調達コストの削減に努めたほか、システムの適正化、医療機器保守業務の効率化に向けた組織体制の強化に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテなどのシステムの適正化に向けて、民間経験のあるシステム担当係長を、機構本部に1名、八幡病院に1名配置 ・ 医療機器保守業務の効率化に向けて、臨床工学技士を、医療センターに2名、八幡病院2名増員 ○ 高額医療機器の保守契約については、機器購入時の保守複数年一体契約のほか、包括保守や損害保険の活用など、保守金額の削減に向けて選択肢の幅を広げた。また、コスト削減だけでなく事務負担の軽減にもつながる業務委託等の複数年契約を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務委託等の複数年契約化は、医療センターで新規14件（累計19件）、八幡病院で新規21件（累計26件） ○ 機構本部と両病院事務局が連携し、医薬品や診療材料の調達について、ベンチマークシステムを活用した価格交渉のほか、両病院の価格統一化に取り組んだ。また、診療材料の全国規模の共同購入組織に加入することを決定し、令和3年4月からの開始に向けた準備を行った。 ○ 機構本部と両病院の薬剤課が連携し、後発医薬品の使用割合の向上に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数量ベースでは、新たな後発医薬品が次々に発売される中においても、診療報酬の加算が得られる80%以上を維持できるよう後発品への置き換えを実施 ・ 高額医薬品（抗がん剤や造影剤等）については、後発品への置き換えを実施 ○ 委託業務について、コスト削減や事務効率化の観点から、医療センターと八幡病院の契約一本化を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10業務で検討を行い、競争性の確保や費用対効果の観点から2業務で一本化を実施（累計22件） ○ 職員からアイデアを募り、委託内容の見直し、消耗品・印刷費・光熱水費の削減に向けた取組みを実施するとともに、経営戦略会議や経営状況説明会において情報共有を行い、効果的な取組みを機構本部・各病院での水平展開に取り組んだ。 	4	4	<p>調達部門への専任職員の配置、契約制度や業務委託の見直しなどへの取り組みが進んでおり、後発医薬品採用率について、医療センターは91.0%で、令和5年度の目標値90.0%を達成し、八幡病院87.8%も向上していることから、評価「4」とした。</p>

中期計画	年度計画
------	------

< 関連指標及び目標 >

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和5年度 目標
後発医薬品 採用率	医療センター	84.0%	91.7%	91.0%	90.0%
	八幡病院	86.7%	86.9%	87.8%	90.0%

※ 後発医薬品採用率 = $\frac{\text{採用後発医薬品の数量}}{\text{後発医薬品が存在する医薬品の数量}} \times 100$

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 経費節減・抑制対策 (2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備</p> <p>ア 医療機器等については、モニタリングによる稼働状況の把握等により、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努める。</p> <p>○ また、医療機器等の計画的かつ効率的な運用に向けて、臨床工学技士等を配置した医療機器管理部門の設置、医療機器等の配置状況や稼働率を可視化できるシステムの導入等を検討する。</p> <p>イ 医療機器をはじめとする高額な機械設備や情報システム等の新規導入や更新にあたっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組む。</p> <p>○ 磁気共鳴コンピュータ断層撮影装置(MR I)やX線コンピュータ断層撮影装置(CT)等の高額な機械設備や電子カルテ等の情報システム等については、中長期の新規導入・更新計画を作成する。</p> <p>また、電子カルテの共通化をはじめ、両病院で採用する医療機器等の規格の統一により、医療の質や患者サービスの向上及びコスト削減につながる取組みを推進する。</p>	<p>(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備</p> <p>医療機器等については、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努めるとともに、高額な機械設備や情報システム等の新規導入や更新にあたっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 医療機器等の稼働状況の把握</p> <p>○ 医療機器等の計画的かつ効率的な運用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器管理部門の設置の検討 ・ 稼働状況等の可視化システムの導入の検討 <p>○ 中長期の新規導入・更新計画の作成</p> <p>○ 両病院における医療機器等の規格統一化の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテの共通化に向けた検討【再掲】

中期目標 (内容)	ア 医療機器等については、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努めること。 イ 医療機器をはじめとする高額な機械設備、情報システム等の新規導入及び更新に当たっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備</p> <p>医療機器等については、費用対効果等を勘案して稼働率の向上に努めるとともに、高額な機械設備や情報システム等の新規導入や更新にあたっては、法人全体で効率的かつ計画的に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院が保有する高度医療機器を有効活用するため、新規購入の予算要求時に、共同利用の可否の判断材料となる稼働状況の把握を行った。 ○ 医療機器等の計画的かつ効率的な運用に向けて、各病院に臨床工学技士を増員したほか、医療機器管理部門の設置や、稼働状況の可視化システムの導入について検討を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床工学士を両病院に2名ずつ増員 ・ 医療機器管理部門の設置は引き続きの検討課題であるが、臨床工学課や経営企画課等の連携のほか、関連委員会を活用し、医療機器等の適切な管理を実施 ・ 保守契約については、各病院とも経営企画課が窓口となり、価格削減を推進 ・ 稼働状況の可視化システム「ME機器管理システム」については、八幡病院では新病院移転時に導入済みであるが、非常に高額であるため、医療センターへの導入については今後の検討課題とした。 ○ 各両病院における医療機器等の新規導入や更新について、今後10年間の計画を作成した。 また、医療機器の初期投資だけでなく、保守契約等のランニングコスト、施設改修工事費なども含めた総合的な投資計画の作成にむけた準備に着手した。 ○ 新たに購入する医療機器等については、機構全体で情報共有し、可能な限り両病院での規格統一を検討する仕組みを構築した。 ○ 令和10年度に電子カルテを共通化させることを目標に、外部の専門家の協力の下、両病院の直近の更新に向けた検討を行った。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度に更新時期を迎える八幡病院では、現在のベンダーで継続することとなったが、令和10年度の共通化によるベンダー変更も考慮し、現行以上のシステム改修は行わない方針で決定 ・ 令和5年度に更新時期を迎える医療センターでは、令和10年度の共通化を見据え、令和5年度からのベンダーの変更も踏まえた検討を開始 	3	3	<p>医療機器等の稼働状況の把握などに着手しており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>なお、医療機器等の稼働率をさらに高める取組みが必要である。</p>

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 自立的な業務運営体制の構築 (1) マネジメント体制の確立
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) マネジメント体制の確立</p> <p>ア 病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自立的なマネジメント体制の確立に向けて、理事長等の役員で構成する理事会の他、両病院の幹部職員で構成する経営本部会議等を設置する。 ○ 法人本部と各病院の権限と責任を明確にし、組織目標、部門別目標の設定による目標管理を徹底する。 ○ 病院経営を担う法人本部・事務局組織の体制強化に向けて、企画経営部門の機能強化、病院経営に精通した民間人材の登用や医療経営コンサルタントの活用、ジョブローテーションによる幹部人材の育成に取り組む。 	<p>(1) マネジメント体制の確立</p> <p>ア 病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築する。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理事長ミーティングの開催 ○ 経営本部会議等の充実 ○ 組織目標、部門別目標の設定による目標管理を徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構ミッション工程表の進捗管理 ・ 経営指標の管理・分析手法の見直し ○ 法人本部・事務局組織の体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院経営に精通した民間人材の登用 ・ 医療経営コンサルタントの活用 ・ 幹部人材の育成のあり方についての調査・研究

中期目標 (内容)	<p>ア 病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築すること。</p> <p>イ 各病院においては、院長以下、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組むこと。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) マネジメント体制の確立</p> <p>ア 主体的・機動的な意思決定システムの構築病院経営を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応していくため、理事長のリーダーシップの下、理事会を中心とした主体的かつ機動的な意思決定システムを構築した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重要な経営課題等を経営トップが情報共有するため、機構の常勤役員である理事長、機構本部長、両院長による「理事長ミーティング」を開催した。7月からは、新型コロナによる経営面・医療面の課題に迅速に対応するため、対象を全職種の関係係長まで広げた「経営戦略会議」に運用を変更した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長ミーティングの開催実績は3回 ・ 経営戦略会議の開催実績は7回 ○ 理事会に次ぐ意思決定機関として、機構幹部職員で構成する「経営本部会議」を毎月開催し、理事会上程議案の審議、病院運営に関する重要事項や経営状況の情報共有等を行った。 ○ 機構が取り組む事業について、工程表を作成して進捗を管理したほか、月次決算によって毎月の目標達成状況等を情報共有するなど、目標管理の徹底に努めた。 <p>また、日次の稼働状況報告や月次決算の様式について、より管理しやすいように随時見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画や年度計画等に掲載した具体的事業について、「機構ミッション工程表」による進捗状況確認の自己評価を実施 ・ 毎月の経営本部会議で月次決算を報告し、目標の達成状況に対する原因分析や課題解決策を協議 ○ 病院経営や専門性の高い分野に精通した民間人材を登用したほか、医療経営コンサルタントの活用、幹部人材の育成のあり方の調査・研究など、事務部門の体制強化に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、病院経営や専門性の高い分野に精通した民間人材を3名採用（八幡病院・経営企画課長、本部・システム担当係長、八幡病院・システム担当係長） ・ 令和3年度の配置に向け、公募により、八幡病院事務局に1名（医事係長）の採用を決定 ・ 経営の再建に向けて、経営コンサルタントに委託し、現状分析・課題の洗い出し・改善策の検討を実施。令和3年度から実行支援 ・ 令和3年度からの階層別研修の実施に向けた計画の検討 	4	4	<p>「経営戦略会議」を立ち上げるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、医療面・経営面での対策を迅速に実施し、理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制が確立してきたことから、評価「4」とした。</p>

中期計画	年度計画
<p>イ 各病院において、院長以下、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組む。</p> <p>また、組織風土づくりに当たっては、特に、病院運営に関する医師の意識改革に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院全体の組織目標、診療科や課単位の部門別目標を明確にし、全ての職員が組織や部門別の目標を踏まえた目標管理ができるよう実効性のある目標管理体制の構築に取り組む。 ○ 病院職員全体の情報共有に向けて、法人全体の事業概要等の作成により、病院運営や経営状況等を全ての職員に周知するとともに、職員による病院運営に関する提言等が法人・病院幹部に伝わるような仕組みづくりに取り組む。 	<p>イ 各病院において、院長以下、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組む。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機構全体の基本理念・シンボルマーク等の活用 ○ 機構全体の広報戦略の策定 ○ 医師等の意識改革 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療科や課単位の部門別目標の設定 ・ 診療科別ヒアリング等の実施 ○ 病院職員全体の情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人全体の事業概要等の作成 ○ 職員と経営幹部による情報共有等の仕組みづくり

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ 機構全体の組織風土づくり</p> <p>機構全体または各病院において、全ての職員が一丸となって病院運営にあたることのできる組織風土づくりに取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機構のシンボルマークを使用したピンバッジ・機構旗を製作し、外部会議参加時の着用や施設行事開催時の掲揚を推進した。 ○ 4月から機構本部に新設した広報担当ラインと両病院が連携し、機構全体の広報戦略を検討した。 ○ 今年度は新型コロナによる影響を踏まえ、診療科や課単位の部門別目標を設定は見送ったが、診療科別のヒアリングなどを通じて、医師をはじめとする職員の意識改革に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療科別ヒアリングは、理事長出席の下、医療センターで37部門を2回ずつ、八幡病院で27部門を1回実施 ○ 機構職員全体の情報共有に向けて、職員広報誌の発行、グループウェアの充実等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構通信を4半期ごとに4回発行 ・ グループウェア「サイボウズ」を活用し、コロナ通信（20回発行）など、職員向けの情報をきめ細かく発信 ・ 法人全体の事業概要の作成に着手 ○ 職員からの意見・質問を受付けるため、経営状況説明会でのアンケートを継続実施するとともに、グループウェア「サイボウズ」において、新たに「職員ポスト」を設置した。 			

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 自立的な業務運営体制の構築 (2) 職員の経営意識の向上
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(2) 職員の経営意識の向上</p> <p>ア 職員の経営感覚を高めるため、病院を取り巻く医療環境の変化や経営状況をリアルタイムで提供し、計画の達成状況の周知に取り組むほか、職員を対象とした外部講師による講演会の開催などにより職員の経営意識の向上に努める。</p> <p>イ 職員自らが業務改善に積極的に取り組めるよう、職員提案制度の充実、アンケート・ヒアリングの実施、職員と病院幹部の交流の促進等により職員の声を聴く取り組みや、職員の提案を実現させるための仕組みづくりに取り組む。</p>	<p>(2) 職員の経営意識の向上</p> <p>職員の経営感覚を高めるとともに、職員自らが業務改善に積極的に取り組めるよう、職員の経営意識の向上に努める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院運営や経営状況等の職員への提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員向け広報誌の製作 ・ 外部講師による講演会の開催 ○ 職員と病院幹部の交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員提案制度の充実 ・ アンケート・ヒアリングの実施

中期目標 (内容)	ア 職員の経営感覚を高めるための取組を進めること。 イ 職員自らが業務改善に積極的に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 職員の経営意識の向上</p> <p>職員の経営感覚を高めるとともに、職員自らが業務改善に積極的に取り組めるよう、職員の経営意識の向上に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院運営や経営状況等を職員に分かりやすく周知するため、職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員広報誌「機構通信」を4半期ごとに4回発行し、全職員に配布 ・ 経営状況説明会を10月に八幡病院、医療センター、機構本部・看護学校で開催 ・ 外部講師による講演会は、新型コロナ感染防止の観点から開催を見送り ○ 職員と病院幹部の交流の促進に向けて、新たにグループウェア活用による職員提案制度を開始するとともに、診療科別ヒアリング、経営状況説明会等、できるだけ多くの機会の設定に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員提案制度については、グループウェア「サイボウズ」を活用し、職員からの意見・質問を直接受け付ける「職員ポスト」を設置 ・ 診療科別ヒアリングは、理事長出席の下、医療センターで2回、八幡病院で1回実施 ・ 経営状況説明会を10月に医療センター、八幡病院、機構本部・看護学校でそれぞれ開催、アンケートも実施し、「サイボウズ」で職員全員に回答をフィードバック ・ 八幡病院において、12月から1月にかけて院長と各部署の意見交換を実施、3月に回答をフィードバック 	3	3	職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催等に取り組むなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 自立的な業務運営体制の構築 (3) 法令・行動規範の遵守等
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(3) 法令・行動規範の遵守等</p> <p>ア 公立病院として、市民の信頼を確保するため医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、法人職員としての行動規範と倫理を確立する。</p> <p>法令・行動規範の遵守にあたっては、関係内部規定を整備し適切に運用するとともに、コンプライアンスに関する職場研修を定期的実施する。</p> <p>ハラスメント防止にあたっては、人事の公正の確保、職員の利益の保護及び職員の能率の発揮を担保できるよう、基準を整備した上で職員に周知し、厳正に対処する。</p> <p>また、診療情報に関する個人情報については、保護とセキュリティの確保等に努める。</p> <p>イ ガバナンス強化の観点から、役員及び職員の不正防止に向けて地方独立行政法人法に基づく、内部統制の仕組みを整備するとともに、市立病院にふさわしい行動規範・倫理を遵守するための制度を構築する。</p>	<p>(3) 法令・行動規範の遵守等</p> <p>公立病院として、市民の信頼を確保するため、関係法令の遵守、ガバナンス強化等の観点から、法人職員としての行動規範と倫理を確立する。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法令・行動規範の遵守の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係内部規定の運用 ・ コンプライアンスに関する職場研修の実施 ○ ハラスメント防止対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 制度や基準の整備、職員への周知 ○ 診療情報の保護・セキュリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙カルテ保管体制の見直しに向けた検討 ○ 役員及び職員の不正防止対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部統制の仕組みの整備

中期目標 (内容)	<p>ア 医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、法人職員としての行動規範と倫理を確立すること。</p> <p>イ ガバナンス強化の観点から、内部統制の仕組みを整備すること。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 法令・行動規範の遵守等</p> <p>公立病院として、市民の信頼を確保するため医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、法人職員としての行動規範と倫理の確立に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法令・行動規範の遵守に向けて、内部規定の運用や職員研修を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月に本部職員向けの不祥事防止・ハラスメント研修を実施 ・ 3月に外部講師による管理監督者向けのハラスメント研修を実施 ○ ハラスメント防止に向けて、外部相談窓口の開設、ハラスメント対策専門官による相談受付け、職員向けの啓発や研修の実施等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に弁護士による外部相談窓口を開設 ・ ハラスメント対策専門官による相談実績は延べ58件 ・ 12月と3月にハラスメント研修を実施 ・ 9月の機構通信でハラスメント取組状況を掲載 ○ 診療情報の保護・セキュリティの確保に向けて、会計監査人によるIT監査で指摘された事項の改善を行った。また、他病院の状況を踏まえて紙カルテの保管体制を見直し、保存期間の設定・期限満了後の速やかな廃棄に向けた規程を整備した。 ○ 役員及び職員の不正防止対策や内部統制の仕組みの整備に向けて、監査法人・外部コンサルタントとの協議を進めた。 	3	3	<p>内部規定の整備をはじめ、ハラスメント対策専門官の配置などに取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

中期目標 (内容)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 4 職場環境の充実
--------------	------------------------------------

中期計画	年度計画
<p>4 職場環境の充実</p> <p>ア 働き方改革の観点から、病院の実態に即して、職員が働きやすく、長く働き続けることができる職場環境づくりに努める。</p> <p>また、職場環境の充実に向けた具体策の検討にあたっては、職員で構成するプロジェクトチームを編成する。</p> <p>○ 地方独立行政法人制度の特長を活かした法人固有の人事給与制度の構築に向けて、病院の業績が特に良好な場合の賞与の支給や職員の業績を反映した昇給制度を導入するとともに、人事評価制度のあり方、柔軟な勤務形態の導入等について検討するほか、院内保育所の充実等、子育てや介護が必要な職員が働きやすい職場環境づくりに努める。</p> <p>○ 働き方改革の観点から、医療スタッフの負担軽減のため、医師や看護師の事務作業補助者の配置、病棟への薬剤師の配置や手術室への臨床工学技士の配置、医療業務のタスクシフティング等に取り組むとともに、時間外勤務の削減や有給休暇が取得しやすい職場にするため、人員配置や業務の見直し等に取り組む。</p> <p>また、ワークライフバランスの確保、職員の健康保持に取り組む。</p> <p>イ 職員のやりがいや満足度の向上に向けて、職員満足度調査を実施するとともに、職員研修や職員提案制度の充実、人事評価制度の見直しなどに取り組む。</p>	<p>4 職場環境の充実</p> <p>働き方改革の観点から、職員が働きやすく、長く働き続けることができる職場環境づくりに努めるとともに、職員のやりがいや満足度の向上に向けた取組みを進める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革推進本部の運営 ・ 働き方改革研究会の提言に基づく施策の推進・進捗管理 <p>○ 医療スタッフの負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師や看護師の事務作業補助者の配置 ・ 病棟への薬剤師の配置 ・ 手術室への臨床工学技士の配置 ・ 医療行為の一部の他の職種への委譲に向けた検討（タスクシフティング） ・ 救急救命士の採用【再掲】 <p>○ 法人固有の人事給与制度の構築に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔軟な勤務形態導入に向けた検討（看護職の変則2交代） <p>○ 医師の人事評価制度の見直しに向けた検討</p>

中期目標 (内容)	ア 働き方改革の観点から、病院の実態に即した職員が働きやすい職場環境づくりに努めること。 イ 職員のやりがいや満足度の向上に努めること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>4 職場環境の充実</p> <p>働き方改革の観点から、病院の実態に即して、職員が働きやすく、長く働き続けることができる職場環境づくりに努めるとともに、職員のやりがいや満足度の向上に向けた取組みを進めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働き方改革を推進するため、「働き方改革研究会」の提言を踏まえ、年度計画に基づく取組みを進めた。また、両病院におけるWi-fi環境の強化など、年度中に新たに検討を開始した取組みも進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月の経営本部会議において、1年間の取組状況を報告 ○ 医療スタッフの負担軽減に向けて、事務補助者の配置やタスクシフティングなど、年度計画に基づいて各種の取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師や看護師の負担軽減のため、医師事務作業補助者及び病棟クラークを、医療センターに39名（昨年度30名）、八幡病院に18名（昨年度14名）配置 ・ 病棟での薬剤管理や服薬指導のため、病棟専任の薬剤師を、医療センターで12名（昨年度11名）、八幡病院で9名（昨年度0名）配置 ・ 医療機器の点検業務を効率化するため、手術室専任の臨床工学技士を、医療センターで2名（昨年度2名）、八幡病院で1名（昨年度0名）を配置 ・ 医療行為の一部（特定行為）を専門看護師にシフトするため、医療センター3名、八幡病院1名が特定行為研修を受講 ・ 救急医療に関する専門人材として、救急救命士を4月から2名採用【再掲】 ○ 法人固有の人事給与制度の構築に向けて、手当の拡充のほか、柔軟な勤務体系導入に向けた検討に着手した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナに対応するための特殊勤務手当（感染症予防作業手当）を拡充 ・ 10月に機構本部と医療センターで看護職の変則2交代制に関する勉強会を実施 ○ 医師の人事評価制度について、診療実績などの病院経営に対する貢献度を適正に評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度の検討を進め、令和3年度からの導入を決定した。 	4	4	<p>「働き方改革推進本部」の提言を踏まえ、医師・看護師の負担軽減や時間外勤務の削減、特殊勤務手当の拡充などに取り組んでいる。看護師の離職率については、医療センター6.7%、八幡病院6.3%と、両病院とも、令和5年度目標8.1%以下を上回っている。</p> <p>時間外勤務時間が、病院機構全体で、前年比3時間46分削減などの成果があるなど、働き方改革の観点から、病院の実態に即した、職場環境の充実が図られていることから、評価「4」とした。</p>

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>○ 4月に機構本部に人材育成・採用担当課長を配置して体制を強化するとともに、外部委託による主査級の研修を試行実施した。</p> <p>○ 職員が働きやすい職場環境づくりに向けて、院内保育所の充実等、年度計画に基づいて各種の取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月から、両病院の院内保育所において、病児保育を開始 ・ 時間外勤務の削減に向けて、医師事務作業補助者・病棟クラークを増員するとともに、「時間外3時間削減運動」を開始し、ポスター・機構通信での啓発、経営戦略会議での状況報告等を実施 ・ 有給休暇の取得促進に向けて、5月に全職員を対象に通知を行ったほか、定期的に取得状況の調査を行い、取得率が低い部門への指導等を実施 ・ ワークライフバランスの確保に向けて、時間外勤務や有給休暇取得の状況を把握するとともに、欠員補充や前倒し採用によって職員の負担軽減に努めるなど、多角的な取組みを実施 ・ 職員の健康保持について、健康診断等を適切に実施するとともに、全職員を対象に新型コロナ及びインフルエンザワクチン接種を実施したほか、新型コロナへの感染防止対策も実施 ・ 新型コロナ感染防止の観点から、今年度の実施は見送り <p>○ 令和3年度の実施に向けて、効率化や結果の有効活用の観点を踏まえて、実施方法等を検討した。</p> <p>○ 看護師の離職防止・定着促進に向けて、病棟クラークの配置による業務負担の軽減に取り組んだほか、新人指導の研修会、変則2交代に関する勉強会を実施した。</p> <p>○ 法人固有の福利厚生制度の創設に向けて、他都市の状況調査を行ったほか、職員アンケートの令和3年度実施に向けた準備を進めた。</p>			

中期目標 (項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 財務基盤の安定化
--------------	--------------------------------

中期計画	年度計画
<p>1 財務基盤の安定化</p> <p>ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。</p> <p>財務基盤の安定化に当たっては、経営課題を明確にし、中長期的な収支管理に取り組むとともに、月次決算等の経営情報をきめ細かく把握し、部門別の目標達成状況の分析を行うことにより、経営情報を法人全体で共有する。</p> <p>また、そうした情報を法人全体で共有するとともに、部門ごとの目標達成状況を適宜確認するなど、目標管理による病院運営体制を確立する。</p>	<p>1 財務基盤の安定化</p> <p>政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効率的な病院運営の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月次決算等による経営情報の把握 ・ 部門別の目標達成状況の分析 ・ 経営課題、経営情報の法人全体での共有 ○ 目標管理による病院運営体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構ミッション工程表の進捗管理【再掲】 ・ 部門別の目標達成状況の分析【再掲】 ○ 目標達成に対するインセンティブの導入

中期目標 (内容)	ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>1 財務基盤の安定化</p> <p>ア 財政基盤の安定化に向けた効率的な病院運営</p> <p>財務基盤の安定化に向けて、政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営に取り組んだ。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営情報の把握、部門別の課題の分析、経営課題、経営情報の法人全体での共有など、年度計画に基づいて取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の経営本部会議において、月次決算を報告し、目標達成状況、未達成項目の原因分析、今後の改善策等に関する情報共有等を実施。また、各病院においても、毎月の運営協議会で同様の取組みを実施 ・ 各病院において、経営ヒアリング等を通じて、部門別の課題の分析等を実施【再掲】 ・ 経営課題や経営情報を法人全体で共有するため、各病院での経営状況説明会の開催（10月に八幡病院、医療センター、機構本部・看護学校）、職員広報誌への経営情報の掲載等を実施 <p>○ 目標管理による病院運営体制の確立に向けて、工程表を作成して進捗を管理したほか、月次決算によって毎月の目標達成状況等を情報共有するなど、様々な取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画や年度計画等に掲載した具体的事業について、「機構ミッション工程表」による進捗状況確認の自己評価を実施【再掲】 ・ 各病院において、経営ヒアリング等を通じて、部門別の課題の分析等を実施【再掲】 <p>○ 目標達成に対するインセンティブとして、医師について、診療実績などの病院経営に対する貢献度合を適正に評価し、評価結果を給与に反映させる制度の検討を進め、令和3年度からの導入を決定した。</p>	3	3	<p>効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営状況の把握や目標管理による手法の導入、各病院における経営ヒアリングを実施するなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>なお、令和3年度は、財政基盤の安定化に向け、経営課題を明確にし、中期計画や年度計画の取組みを着実に進める必要がある。</p>

中期目標 (項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 財務基盤の安定化
--------------	--------------------------------

中期計画	年度計画
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。	○ 営業収支及び経常収支の黒字化の実現に向けた取組み

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和5年度 目標
営業収支比率	法人全体	—	93.7%	105.4%	100.3%
	医療センター	—	97.0%	104.4%	102.6%
	八幡病院	—	92.6%	113.7%	100.9%
経常収支比率	法人全体	96.5%	94.2%	105.8%	100.7%
	医療センター	97.5%	97.4%	104.8%	103.2%
	八幡病院	101.0%	92.9%	114.0%	101.3%

※ 営業収支比率＝営業収益÷営業費用×100

※ 経常収支比率＝経常収益÷経常費用×100

※ 医療センターと八幡病院には、法人本部、看護専門学校の収支は含まない。

中期目標 (内容)	イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現すること。
--------------	------------------------------------

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>イ 営業収支及び経常収支の黒字化</p> <p>新型コロナウイルスの影響により経営は大きな打撃を受けたものの、独自の収支改善に取り組んだほか、新型コロナウイルスに関する国・福岡県の補助制度を最大限に活用したことや、感染症医療等に対する北九州市からの運営費負担金が適切に交付されたこと等もあり、平成25年度以来7年ぶりの営業収支及び経常収支の黒字化を実現した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 新型コロナによる経営への影響を踏まえ、7月に経営戦略会議を立ち上げ、各病院において特命チームを中心とした様々な収入増加・費用削減の取組みを検討・実施した。</p> <p>また、コロナ後を見据え、経営コンサルタントの支援を受けながら、抜本的な改革に取り組む準備も開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業収支 15.5億円（予算比+21.1億円） ・経常収支 16.7億円（予算比+21.8億円） 	3	3	<p>営業収支及び経常収支の黒字化は達成できているが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいため、評価「3」とした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度が廃止や縮小となる場合を見据えて、引き続き、独自の経営改善を進めていく必要がある。</p>

中期目標 (内容)	ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れ、返済等、長期的な資金収支の均衡を図ること。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>ウ 長期的な資金収支の均衡</p> <p>営業収支及び経常収支の黒字化に伴い、現金ベースの収支である単年度資金（実質）収支がプラスとなるとともに、年度末資金剰余も増加した。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 単年度資金（実質）収支がプラスとなったことに伴い、年度末資金剰余も増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単年度資金収支 10.1億円（予算比+14.3億円） ・年度末資金剰余 37.4億円（予算比+14.3億円） <p>○ 外部資金の獲得に向けて、寄付金等取扱要綱に基づく運用を開始するとともにホームページでの募集の呼びかけを開始した。また、治験・臨床研究の推進に向けて、施設・設備の充実、体制強化等を実施したほか、製薬会社等との契約内容の見直しにも着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付金受入実績 33件・443万円（昨年度3件・86万円） ・寄付物品受入実績 213件・マスクやガウン等の個人防護物品ほか（昨年度4件） 	3	3	<p>新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいが、単年度実質収支が黒字化し、年度末資金剰余も増加したことから、評価「3」とした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度が廃止や縮小となる場合を見据えて、引き続き、長期的な資金収支の均衡を図っていく必要がある。</p>

中期目標 (項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 運営費負担金のあり方
--------------	----------------------------------

中期計画	年度計画
<p>2 運営費負担金のあり方</p> <p>法人としては、可能な限り自立した経営に努めることとするが、財務基盤の安定化に向けて医療センターと八幡病院の役割である政策医療の実施にかかる費用等については、国の基準に基づいて市の運営費負担金が適切に交付されるよう、市の支援を求めている。</p>	<p>2 運営費負担金のあり方</p> <p>法人としては、可能な限り自立した経営に努めることとするが、財務基盤の安定化に向けて医療センターと八幡病院の役割である政策医療の実施にかかる費用等については、国の基準に基づいて市の運営費負担金が適切に交付されるよう、市の支援を求めている。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な運営費負担金の確保

中期目標 (内容)	政策医療の実施等に対する運営費負担金については、法人の経営状況を見ながら、国が示す基準等に基づいて適切に行うこととするが、法人としては、経営効率化の観点から可能な限り自立した経営を目指すこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>2 運営負担金のあり方</p> <p>法人としては、可能な限り自立した経営に努めることとするが、財務基盤の安定化に向けて医療センターと八幡病院の役割である政策医療の実施にかかる費用等については、国の基準に基づいて市の運営費負担金が適切に交付されるよう、市の支援を求めた。</p> <p>※令和2年度の運営費負担金の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総額 45.6億円 (内訳) ・感染症医療 5.3億円 ・周産期医療 5.8億円 ・小児救急を含む救急医療 18.6億円 ・看護師養成費 0.6億円 ・院内保育所運営費 0.4億円 ・企業債元利償還金 11.4億円 ・基礎年金拠出金 3.5億円 	3	3	<p>運営費負担金を適切に執行していることから、評価「3」とした。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う患者減の影響により、令和2年度補正予算を計上したことから、当初計画より増額となっている。</p> <p>中期計画では、運営費負担金については、法人としては、経営効率化の観点から可能な限り自立した経営を目指すこととされており、令和5年度までの運営費負担金の規模感について、検討する必要がある。</p>

中期目標 (項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 1 看護専門学校運営
--------------	----------------------------------

中期計画	年度計画
<p>1 看護専門学校の運営</p> <p>ア 地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院との一体的運営という利点を活かし、講義や臨地実習等において、相互協力することにより、臨床看護及び教育の質を向上させる。 ○ 地域の看護職の教育に貢献するため、可能な限り学校施設・設備及び教材の開放に努める。 ○ 優秀な看護学生の確保に向けて、学生や社会人を対象としたオープンキャンパスを実施するとともに、学校訪問や説明会の開催等に取り組む。 ○ 看護師の定着に向けて、卒業生に対するフォローアップ事業に取り組む。 <p>イ 教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員については、市立病院看護部との人事交流により、看護教育に適性の高い人材の配置・育成に取り組む。 ○ 教育環境の整備や学習教材の充実等に取り組むとともに、卒業生の市内就職率の向上に向けて、奨学金制度や授業料等、学生による費用負担のあり方について検討する。 <p>ウ 将来的な看護専門学校のあり方については、市内の看護師の需給状況や関係機関の動向を踏まえ、市と法人で十分協議する。</p>	<p>1 看護専門学校の運営</p> <p>地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組むとともに、教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努める。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 臨床看護及び教育の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義等における市立病院との相互協力 ・ 市立病院看護部との人事交流 ・ 看護教員の確保 ・ 看護教育に適性の高い人材の配置・育成 ・ 教育環境の整備 ・ 学習教材の充実 ○ 学校施設・設備及び教材の開放 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパスの実施 ・ 学校訪問や説明会の開催等 ○ 卒業生の市内就職率の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生に対するフォローアップ ○ 奨学金制度や授業料等の学生負担のあり方の検討

中期目標 (内容)	ア 地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組むこと。 イ 教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努めること。 ウ 将来的な看護専門学校のある方については、市と十分協議すること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>1 看護専門学校の運営</p> <p>地域の看護師養成機関として、優秀な人材の育成に取り組むとともに、教育の質を確保しつつ、効率的な運営に努めた。</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 臨床看護及び教育の質の向上に向けて、看護教育人材の確保、教育環境の整備、学習教材の充実など、年度計画に基づいて取組みを進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義や臨地実習にあたっては、医師や看護師の講師派遣について、医療センター及び八幡病院との相互協力を実施。医療センターから医師25名、看護師17名、助産師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名を派遣（計46名）。八幡病院から医師1名、看護師6名を派遣（計7名） ・ 優秀な教員の確保に向けて、各病院看護部との人事交流を実施。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、カリキュラム編成準備セミナーをオンライン受講（3回）、福岡県看護教員養成講習会は中止 ・ 4月に専任看護教員1名、実習担当教員1名を採用 ・ 看護教育に適正の高い人材を配置するため、専任教員養成講習会受講者8名を配置 ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設・設備の改修を実施したほか、専用公用車を1台確保 ・ 学習教材の充実に向けて、モデル人形等の教具、図書やDVD教材など、必要な学習機材を調達 ○ 学校施設・設備及び教材の機構本部・医療センターへの貸し出しのほか、オープンキャンパスを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生を対象としたオープンキャンパスを8月に開催（83名参加） ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、高校主催の説明会は実施されず ○ 卒業生の市内就職率の向上に向けて、卒業生からの個別相談には応じているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、懇親会の実施は見送った。 ○ 市内の看護学校における学生負担状況を踏まえ、実費負担であった「実習費」を、教材や消耗品の費用も加えた定額の「実習関連費」に改め、令和4年度新入学生から徴収開始を決定した。 	4	4	<p>卒業生の市内就職率が94.4%と、令和5年度の目標83.6%を上回っており、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ、効率的な運営を行っていることから、評価「4」とした。</p>

中期計画	年度計画
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 看護学生の実習受入れ体制等の見直しに向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任看護師の配置に向けた検討 ・ 費用負担の見直しに向けた検討 ○ 外部資金の獲得【再掲】 ○ 将来的な看護専門学校のあり方の検討

<関連指標及び目標>

項目	平成29年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和5年度 目標
卒業生の 市内就職率	81.6%	83.3%	94.4%	83.6%

※ 卒業生の市内就職率＝北九州市内就職者数÷就職者数×100

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>○ その他、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、様々な取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センター臨地実習前のPCR検査の実施 ・ 臨地実習の約半分を学内実習に変更 ・ 土日祝日も含む毎日の健康報告の実施 ・ 成人式への参加自粛 ・ 新型コロナウイルス感染防止行動規範の遵守 <p>○ 専任看護師の配置については、新型コロナウイルス対応を優先し、今後の検討課題とした。また、市立看護専門学校生の費用負担については、実費負担であった「実習費」を、教材や消耗品の費用も加えた定額の「実習関連費」に改め、令和4年度新入学生から徴収開始を決定した。</p> <p>○ 寄付金の獲得に向けて、要綱に基づく運用、ホームページでの募集の呼びかけを開始した。</p> <p>○ 将来的な看護専門学校のあり方について、少子化等の社会的要因を踏まえ、機構内部で収支改善や学生確保の検討を実施した。</p>			

中期目標 (項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 2 施設・設備の老朽化対策
--------------	-------------------------------------

中期計画	年度計画
<p>2 施設・設備の老朽化対策</p> <p>建築後25年以上を経過している医療センターの老朽化対策については、法人内部での検討を開始する。</p> <p>その際、周産期医療、感染症医療や災害時における医療等の政策医療については、市全体で検討される将来的なあり方を踏まえる必要があり、市と緊密に連携しながら市全体の枠組みの中でその実施体制を検討する。</p> <p>なお、医療センターの老朽化対策を含めた大規模な投資が必要な事案については、市と十分協議しながら取組を進める。</p>	<p>2 施設・設備の老朽化対策</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療センターの老朽化対策の検討 ○ 市における政策医療のあり方の検討への参画

中期目標 (内容)	建築後25年以上を経過している医療センターの老朽化対策等、大規模な投資が必要な事案については、将来的な政策医療の提供体制に関する検討結果等を踏まえる必要があることから、市と十分協議すること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>2 施設・設備の老朽化対策</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 医療センターの老朽化対策について、機構内部での調査・検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期点検資料等により、施設や設備の法定耐用年数や標準更新周期を把握 ・ 設備等の製造年月日や、これまでのメンテナンス状況を一覧にした台帳を作成し、今後10年間で必要となる改修や設備更新にかかる費用の調査を実施 <p>○ 令和2年度においては、「新型コロナ対応を最優先する」ことで市と申し合わせた。</p>	3	3	<p>老朽化状況等の調査に着手していることなどから、評価「3」とした。</p> <p>医療センターの老朽化対策については、引き続き、調査・検討を進めていただきたい。</p>

中期目標 (項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 3 市政への協力
--------------	--------------------------------

中期計画	年度計画
<p>3 市政への協力</p> <p>ア 地域包括ケアシステムの構築や、障害者医療への支援体制づくりなど、市が進める保健・医療・福祉・介護に関する施策については、積極的な役割を果たす。</p> <p>イ 災害発生時やその他の緊急時の医療提供体制については、北九州市地域防災計画や北九州市災害対策本部の決定等に基づき、北九州市医師会と連携し、適切な役割を果たす。</p> <p>ウ その他、市からの協力要請については、積極的に対応する。</p>	<p>3 市政への協力</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州市との緊密な連携体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役員や事務等の各レベルでの連携 ○ 全国・福岡県内の公立病院との連携の強化

中期目標 (内容)	<p>ア 地域包括ケアシステムの構築や障害者医療への支援体制づくりなど、市が進める保健、医療、福祉及び介護に関する施策について、積極的な役割を果たすこと。</p> <p>イ 災害発生時やその他の緊急時の医療提供体制については、「北九州市地域防災計画」や北九州市災害対策本部の決定等に基づき、北九州市医師会と連携し、適切な役割を果たすこと。</p> <p>ウ その他、市からの協力要請については、積極的に対応すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>3 市政への協力</p> <p>【令和2年度の取組み】</p> <p>○ 北九州市との緊密な連携体制の構築に向けて、市が進める保健・医療施策について積極的な役割を果たすとともに、組織トップから事務レベルまで様々な階層において、緊密に連携できる体制を構築した。</p> <p>また、新型コロナ対策について、北九州市からの要請に基づき、市との緊密な連携の下、市内医療機関の中心的な役割を果たした。</p> <p>・ 令和2年度は、理事長・副理事長が市長・副市長をはじめとする市幹部と随時協議したほか、事務レベルでは毎月の経営戦略会議に市がオブザーバー参加をするなど、様々な階層で緊密に意見交換等を実施</p> <p>○ 新型コロナ感染拡大防止の観点から各種会議が中止・延期となったが、今後引き続き連携強化に努めていく。</p>	5	5	<p>新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的役割を担ったことから、評価「5」とした。</p>

第5 予算、収支計画及び資金計画

財務諸表及び決算報告書を参照

第6 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画（令和2年度）	令和2年度実績																		
<p>1 施設及び設備の整備に関する計画</p> <p style="text-align: right;">（単位：百万円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>4,944</td> <td>北九州市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	4,944	北九州市長期借入金等	<p>1 施設及び設備の整備に関する計画</p> <p style="text-align: right;">（単位：百万円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>885</td> <td>北九州市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	885	北九州市長期借入金等	<p>1 施設及び設備の整備に関する計画</p> <p style="text-align: right;">（単位：百万円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備内容</th> <th>実績額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>897</td> <td>北九州市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備内容	実績額	財源	病院施設、医療機器等整備	897	北九州市長期借入金等
施設及び設備内容	予定額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	4,944	北九州市長期借入金等																		
施設及び設備内容	予定額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	885	北九州市長期借入金等																		
施設及び設備内容	実績額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	897	北九州市長期借入金等																		
<p>2 人事に関する計画</p> <p>医療需要の動向や経営状況の変化に迅速かつ的確に対応することができるよう、組織及び職員配置の在り方を常に検証し、必要に応じて弾力的な見直しを行う。</p>																				
<p>3 中期目標の期間を超える債務負担</p> <p style="text-align: right;">（単位：百万円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中期目標期間償還額</th> <th>次期以降償還額</th> <th>総債務償還額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>9,163</td> <td>13,237</td> <td>22,400</td> </tr> <tr> <td>長期借入金償還債務</td> <td>1,182</td> <td>3,758</td> <td>4,940</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10,345</td> <td>16,995</td> <td>27,340</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中期目標期間償還額	次期以降償還額	総債務償還額	移行前地方債償還債務	9,163	13,237	22,400	長期借入金償還債務	1,182	3,758	4,940	計	10,345	16,995	27,340				
項目	中期目標期間償還額	次期以降償還額	総債務償還額																	
移行前地方債償還債務	9,163	13,237	22,400																	
長期借入金償還債務	1,182	3,758	4,940																	
計	10,345	16,995	27,340																	
<p>4 積立金の処分に関する計画</p> <p>なし</p>																				